

平成27年度
武道等指導充実・資質向上支援事業
実践事例報告集

平成29年11月

スポーツ庁政策課学校体育室

本実践事例報告集の活用について

本実践事例報告集は、スポーツ庁が平成27年度の「武道等指導充実・資質向上支援事業」の成果を全国各地での取組の参考にしていただくため、委託先の各教育委員会から提出された実践研究結果をとりまとめたものです。特に、地域の指導者の協力を得て、指導の充実や安全に配慮した指導方法の工夫などに取り組もうとしている学校での活用を期待します。

目次

1. 実践事例

【柔道】

- ・保健体育科教員と地域指導者の密接な連携により、安全を確保しながら、基礎的・基本的な技能の習得を図った実践例
士別市立士別南中学校（北海道）・・・2
- ・外部指導者との連携を通して、安全に柔道の特性に触れさせ、基礎・基本を身に付けさせる授業の実践例
大館市立下川沿中学校（秋田県）・・・4
- ・中央講師を招へいし、学校体育実技指導資料第2集「柔道指導の手引き（三訂版）」に基づいた講習会により、教員の指導力を高めた実践例
山形県教育委員会（山形県）・・・6
- ・協働学習の実現に向けた「知識構成型ジグソー法」の導入により、育成すべき資質・能力を獲得させる特色ある武道（柔道）指導の実践例-ICT機器の活用を踏まえて-
滋賀県立瀬田工業高等学校（滋賀県）・・・8
- ・外部指導者との連携による、生徒の言語活動の充実を高めた実践例
三朝町立三朝中学校（鳥取県）・・・10
- ・オリンピックを経験した柔道選手の話を通じて、武道への関心を高め、武道を学ぶ意義を高めた実践例
浜田市立第三中学校（島根県）・・・12
- ・指導補助員との協力で、教員の指導力を向上させ、生徒が技能を高め楽しさを感じる実践例
川崎市立菅中学校（神奈川県）・・・14

【剣道】

- ・地域の指導者と連携した授業により、教員の指導力と生徒の意欲を高めた実践例
昭和村立昭和中学校（福島県）・・・16
- ・地域指導者の活用による効果的な剣道指導
輪島市立門前中学校（石川県）・・・18
- ・地域の指導者の協力を得て、生徒の実態に応じた指導を行い、生徒の学習意欲を高めた実践例
岡山県立岡山聾学校（岡山県）・・・20
- ・地域スポーツ指導者との連携による武道授業の在り方
下関市立内日中学校（山口県）・・・22
- ・剣道の授業で外部指導者を活用することにより、指導歴、研修歴が浅い教員の指導力、資質能力を効果的に高めることができた実践例
西条市立東予西中学校（愛媛県）・・・24
- ・優れた指導力を有する大学教員と連携した武道（剣道）の実践例～自己効力感・自尊感情を高める授業づくり～
高知市立行川中学校（高知県）・・・26
- ・木刀と竹刀を併用し、剣道の文化的特性を理解させる剣道授業の実践例
伊万里市立国見中学校（佐賀県）・・・30

【相撲】

- ・楽しく安全な武道（相撲）の授業を目指して

能登町立能都中学校（石川県）・・・・・・・・・・ 3 4

- ・地域の特色・人材を生かした「相撲」授業の取組

萩市立田万川中学校（山口県）・・・・・・・・・・ 3 6

【柔道・剣道・相撲】

- ・武道の授業を指導する教員の指導力向上を目指した取組

石川県教育委員会（石川県）・・・・・・・・・・ 3 8

【空手道】

- ・地域指導者の協力を得ながら実施する授業における武道（空手道）の指導

仙台市立愛宕中学校（宮城県）・・・・・・・・・・ 4 0

【なぎなた】

- ・学んだ礼法を学校生活に生かし、生徒の意欲関心を高める武道授業の在り方～リズムなぎなたの実践を通して～

琴平町立琴平中学校（香川県）・・・・・・・・・・ 4 4

- ・地域の指導者と連携し、生徒の関心と学習意欲を高め、基本技能の習得を図った実践例

松山市立高浜中学校（愛媛県）・・・・・・・・・・ 4 6

【弓道】

- ・外部指導者を活用し、教員の指導力と生徒の技術を効果的に高めた弓道の実践

高原町立後川内中学校(宮崎県)・・・・・・・・・・ 4 8

【合気道】

- ・合気道授業における、外部指導者活用の事例

田辺市立明洋中学校（和歌山県）・・・・・・・・・・ 5 0

【ダンス】

- ・地域の指導者による研修会で、教員の指導力を高めた実践例～ダンス講習会の開催による指導力の向上～

京都府教育委員会（京都府）・・・・・・・・・・ 5 2

- ・教員の授業力を高める実践例～ダンス研修と異校種によるダンス授業研究会を通しての検証～

島根県教育委員会（島根県）・・・・・・・・・・ 5 4

- ・ダンス授業における外部指導者の活用により、教員の指導力を高めた実践例

石井町立高浦中学校（徳島県）・・・・・・・・・・ 5 6

- ・外部指導者やICTの活用により、生徒の興味、関心を高め、意欲的に活動した授業実践例

松山市立東中学校（愛媛県）・・・・・・・・・・ 5 8

- ・地域人材を活用した学校体育指導の効果的な実践例

大牟田市立甘木中学校（福岡県）・・・・・・・・・・ 6 0

- ・かわり合いを大切に授業（態度を育てる）実践例

串間市立大東中学校（宮崎県）・・・・・・・・・・ 6 2

【その他】

- ・体育専科教員、地域の指導者を活用することで、児童の体力と教員の指導力を高めた実践例

藤岡市立神流小学校（群馬県）・・・・・・・・・・ 6 6

2. 参考資料

武道必修化に伴う武道の安全管理の徹底について（依頼）（平成29年6月20日付け事務連絡）・・・・・・・・ 7 0

1. 実践事例

保健体育科教員と地域指導者の密接な連携により、安全を確保しながら、基礎的・基本的な技能の習得を図った実践例

学校名 士別市立士別南中学校（北海道）全学年

全校生徒数 248名（男子119名 女子129名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0165（23）4158

学校メールアドレス s-nanchu@educet.plala.or.jp

1 実践研究のねらい

地域の外部指導者を有効活用し、生徒が柔道に親しみながら、技能の向上を図り、安全で楽しく運動できるようにする。

2 実践研究の概要

（1）課題について

- ・学校及び士別市教育委員会、士別市柔道連盟との連携体制の確立
- ・外部指導者との連携を生かす指導内容、方法の工夫

（2）期待される成果について

- ・専門性の高い外部指導者の活用により、基本的な技能の効果的な定着を図ることができる。
- ・安全に配慮した柔道の学習により、武道への親しみを深め、柔道の歴史や礼儀について、関心をもって学ぶことができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）連携体制の確立に向けて

- ①士別市教育委員会が中心となり、柔道授業の実施時期及び学習場所、講師派遣等について調整を行った。
- ②士別市柔道連盟の協力により、安全に配慮した指導を目指すとともに、柔道の心得等が掲示された地域の武道場を利用することにより、武道としての柔道の理解を深めさせることに努めた。

（2）外部指導者との連携について

- ①授業実施2か月前に指導計画や指導案を地域の外部指導者に送付し、生徒の実態に応じた学年別の外部指導者を決定し、技能・安全・礼法等バランスの取れた指導内容について、授業担当者との協議した。
- ②授業前後に外部指導者と打合せを行い、前時までの課題の達成状況、安全管理、授業の進め方について協議しながら授業に臨んだ。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 ルールや安全管理を徹底し、畳の隙間や壁の位置について活動場所の安全を確保した。
- 2 健康調査を行うとともに、頭髪や爪の長さ、眼鏡、時計などの扱いについて確認した。
- 3 受け身や補強運動を確実にを行うとともに、寝技や立ち技を行う際には、示範と説明により、ケガにつながる具体例を示した。
- 4 集団で活動する際には、衝突しないようにスペースの確保と安全管理を徹底した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 専門性の高い外部指導者の協力により、きめ細かな指導ができ、技能の向上が図られた。
- 2 外部指導者との事前打合せや指導において、他校の柔道実施時期と重なり、時間の確保に課題が見られたことから、教育委員会・柔道連盟との綿密な調整と連携が必要である。
- 3 外部指導者と安全や礼法等の指導に関して連携することで、効果的な指導ができた。

○研究内容

【安全管理の徹底】

正座、座礼と武道の心構えの指導



【受け身の習得】

段階的な指導、全体で前回り受け身の練習



【段階的な指導の工夫①】

「受け身」、「寝技」を中心とした段階的な指導



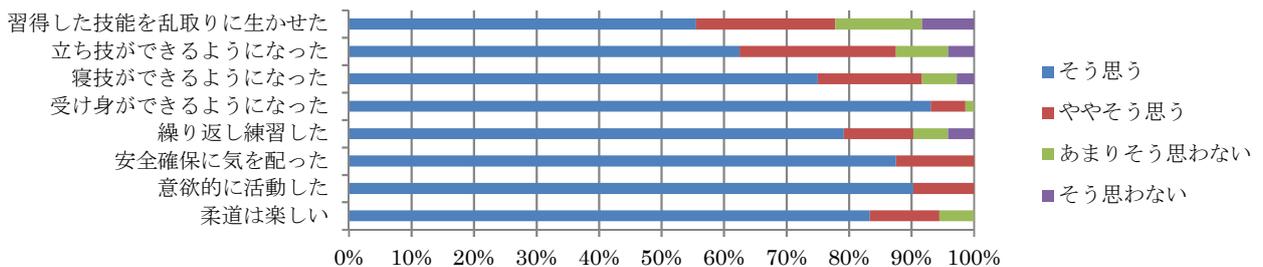
【段階的な指導の工夫②】

習得した技能を活用して実施する乱取り



【生徒アンケートの実施による実態把握】

柔道実施後のアンケート結果における考察



授業実施後の生徒へのアンケートから、「柔道は楽しい」と回答する生徒の割合が増加した。また、日常の挨拶や礼儀作法について、改善が見られた。

柔道授業中は、互いにスペースを空けたり声をかけあったりするなど、安全に注意して授業に臨む姿が見られた。

【今後の柔道授業の取組】

来年度以降の実施に向けて

- ・外部指導者と綿密に連携することにより、技能に限らず、礼儀作法や安全確保について効果的に指導することができた。
- ・指導の質を高めていくためには、柔道関係団体との密接な連携による教師の指導力の向上が必要である。
- ・柔道実施時期以外にも、担当教師が地域の道場で研修を受けるなどして指導力の向上を図るとともに、外部指導者と柔道の授業の指導内容等について打合せを継続するなどして日常的に連携を図っていく必要がある。

外部指導者との連携を通して、安全に柔道の特性に触れさせ、基礎・基本を身に付けさせる授業の実践例

学校名 大館市立下川沿中学校（秋田県）全学年
全校児童生徒数 46名（男子32名 女子14名）
種目等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0186（42）9761
学校メールアドレス simochu@hyper.ocn.ne.jp

- 1 実践研究のねらい
 - （1）専門知識と高い技能を有する外部指導者と連携した授業を行うことにより、生徒の興味・関心を高め、安全に柔道の特性に触れさせ、基礎・基本の定着と技能の向上を図る。
 - （2）外部指導者と連携し授業を行う中で、指導方法についての研究を深める。
- 2 実践研究の概要
 - （1）柔道の特性に触れさせるための指導の工夫
 - （2）安全に配慮しながら、基礎・基本の定着および技能の向上を図る指導の工夫

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

- 1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
 - （1）柔道の特性に触れさせるための指導の工夫
 - ①礼法やマナー、柔道の歴史や特性については、単元の最初の授業で重点的に取り扱うとともに、授業全体を通して丁寧に伝えながら授業を行った。また、資料を掲示して、日本固有の文化について、生徒の興味・関心を高めるようにした。
 - ②生徒の能力に応じて「簡易ゲーム」の時間を確保し、攻防の楽しさを味わわせるようにした。
 - （2）安全に配慮しながら、基礎・基本の定着および技能の向上を図る指導の工夫
 - ①安全な学習ができるように、準備運動や補強運動の他に、どの学年も授業の前半に基本動作や受け身練習を必ず行うようにした。また、生徒の体力や技能の定着状況を踏まえ、技の習得を段階的に図るようにした。
 - ②主体的な生徒の学びになるように、追究型の課題を設定し、授業を展開するようにした。
 - ③保健体育教師（T1）が授業を中心的に進め全体指導を行い、外部指導者（T2）が技の示範や、必要に応じてポイントについて助言していただくように役割を明確にした。その他、柔道経験者である本校職員にもT3として指導に参加してもらい、示範や個別指導の場面で協力してもらった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 受け身の重要性を生徒に伝え、「頭を打たない」ように受け身の仕方をしっかり身に付けさせた。
- 2 「引き手を離さない」「必ず受け身を取る」など「受」と「取」のルールを守らせ、練習場所の安全を必ず確かめさせながら活動を行わせた。
- 3 外部指導者から助言をいただいて指導内容を精選し、生徒に無理のないような単元計画にした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 2年連続で同じ外部指導者とTTを組ませていただくことができた。そのため、昨年度の生徒の様子を踏まえ、能力に合わせた段階的な指導を行うことができた。また、単元を通して、生徒は安心して柔道の特性に触れたり、楽しさを味わったりすることができた。T2とT3の実際の示範も、生徒のスムーズな技の習得につながり、少ない指導時間でも基礎・基本の定着や技能の向上に大変効果的であった。
- 2 この2年間の柔道授業を通して、柔道未経験者である教師にとって、指導の幅を広げることにつながった。指導のねらいや計画、授業展開など、この事業を活用して学んだことを来年度に継続して生かしていけるかが課題である。この事業の継続を希望する。

○ 研究内容

【基礎・基本の定着と安全面に配慮した段階的な指導】

「膝車」の練習を「受」が立ち膝から行っている様子。



【T2とT3による示範】

間近で見て、技のイメージやポイントをつかむ様子。



【柔道の歴史や特性についての資料】

常に生徒の目に触れるように体育館に掲示した資料。
(柔道の2つの理想と礼について)



【受け身で気を付ける体の部位について】

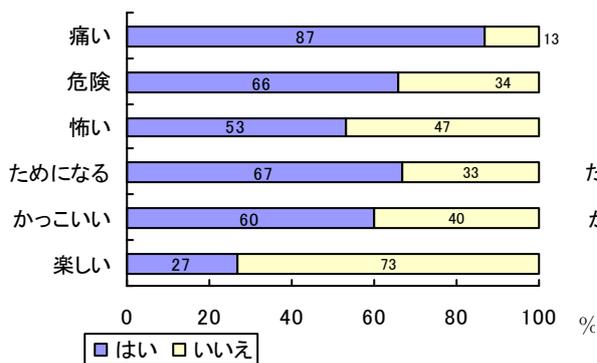
安全面の意識化を図るために、黒板に掲示した受け身の資料。



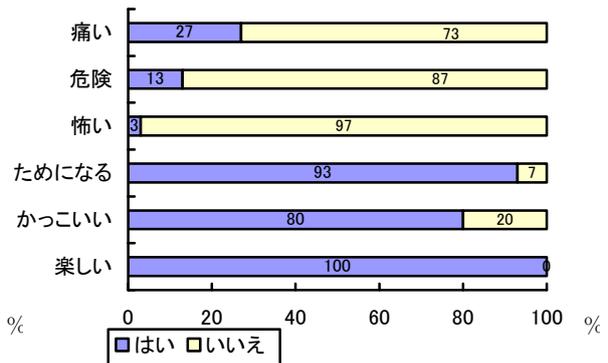
【柔道に関するアンケートより】

柔道に対するイメージの変化（1年生）

<授業前>



<授業後>



【柔道指導における今後の方向性】

生徒が安全に楽しく柔道の特性に触れ、かつ技能の高まりを感じることで指導を目指して

柔道を初めて学習した1年生のアンケート結果からも分かるように、授業の事前と事後では、柔道に対するイメージがマイナスからプラスに大きく変化した。これは、生徒が外部指導者の高い専門性に触れたことや、段階的な専門教育を受けることによって、意欲がかき立てられ、生徒の知識や技能の習得に大きく影響したからだと考える。可能であれば、来年も外部指導者と連携し、生徒が安全に留意しながらも、より柔道の楽しさを味わうことのできる指導を工夫したい。その際、技能の高まりが感じることができる場の設定や視聴覚器機の活用も考えていきたい。

中央講師を招へいし、学校体育実技指導資料第2集「柔道指導の手引き（三訂版）」に基づいた講習会により、教員の指導力を高めた実践例

山形県教育委員会

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 023（630）2894

メールアドレス tachibanam@pref.yamagata.jp

1 実践研究のねらい

文部科学省作成の学校体育実技指導資料第2集「柔道指導の手引き（三訂版）」に基づき、中央講師を招へいしての講習会を開催することで、中学3年間の授業の構成や安全で楽しい質の高い授業づくりについて、さらなる教員の指導力の向上を図る。

2 実践研究の概要

（1）課題について

文部科学省作成の学校体育実技指導資料第2集「柔道指導の手引き（三訂版）」の周知と活用した安全で楽しい質の高い授業づくりの推進

（2）期待される成果（仮説）について

文部科学省作成の学校体育実技指導資料第2集「柔道指導の手引き（三訂版）」の周知と活用した安全で楽しい質の高い授業づくりについての指導法の習得と実施

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）文部科学省作成資料の学校体育実技指導資料第2集「柔道指導の手引き（三訂版）」を活用しての授業づくりについての講習会の開催。

①中央講師の招へい

磯村元信氏（柔道指導の手引き作成委員）、河村直也氏（東京都柔道の安全指導のための技術委員会委員）

②「安全で楽しい柔道の授業づくり」（理論編）の講義

○武道授業の現状 ○安全で楽しい授業づくりのヒント

③「安全で楽しい柔道の授業づくり」（実技編）の実技講習

○柔道エピソードの活用（柔道の歴史や伝統的な考え方を伝える）

○安全で楽しい柔道指導（9時間スモールステップでの授業づくり）

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 学校体育実技指導資料第2集「柔道指導の手引き（三訂版）」の内容に基づき、スモールステップによる授業づくりの講習会を実施した。

○成果の意義と今後の課題

1 「指導成果の調査報告書」からの柔道授業の現状を踏まえながら、「柔道の歴史や伝統的な考え方を伝える柔道エピソードの活用」、「各学年9時間での授業構成とスモールステップ大切にした指導」による安全で楽しい質の高い授業づくりを学ぶことができた。また、受講者全員がこれまでの自分の指導を振り返るとともに、これから授業をする際のヒントを得ることができた。今後は、今回学んだ指導法を各学校で実践し、安全で楽しい質の高い授業を展開していくことが望まれる。

○ 研究内容

【安全で楽しい柔道の授業づくり（理論編）】

検証結果を踏まえた授業改善の視点を学ぶ



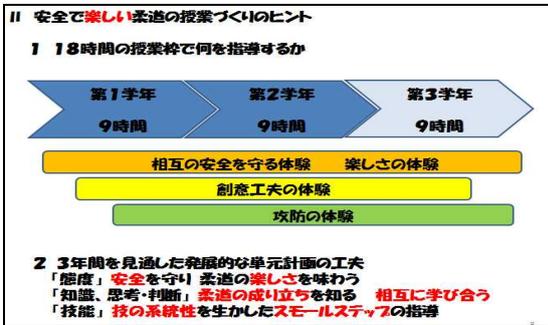
【技能指導の流れ】

初歩から2人1組のスマールステップで



【安全で楽しい柔道の授業づくりのヒント】

9時間スマールステップで授業を構成する
(講習会資料より)



【安全で楽しい技能指導のポイント】

技を工夫する（学習の質的転換）
(講習会資料より)



【講習会参加者・アンケート結果】

講習会参加者へのアンケート調査より（参加者14名 全員回答、自由記述、複数回答可）

【参加者の現状】

◆柔道を指導する上で課題となること

女子に対する指導法に関する内容	3
指導法に関する内容	5
授業づくりに関する内容	5
安全に関する内容	3
用具・施設に関する内容	2

◆柔道指導の手引き

活用している	10
活用していない	4

◆柔道指導のための映像資料(DVD)

活用している	6
活用していない	8

【講習会後の感想】

- ・「課題としていた『礼法を大切に伝えながらも、形にこだわりすぎず、生徒が楽しめる授業展開』を解決できるようなイメージを持つことができました。やらせたことから発表させ、ポイントを説明しながらアクティブ・ラーニングを実践していきたい。」
 - ・「単元を通して指導できるようなプログラムになっており、とてもありがたかった」
 - ・「本校では、これまで受け身をしっかりやって、投げ技に入るといった授業をしていましたが、今日の講習に参加して、新たな授業展開を作成できそうに思えました。」
 - ・「つい投げ技や受け身などの技能の習得に重きを置いてしまうが、今回の講習は、柔道の楽しさや歴史、そして本質にも触れる構成、方法になっており、授業をつくる上で大変参考になった」
- など、参加者全員から授業づくりに向けた前向きな回答が見られた。

【各学校での質の高い授業の実践を目指して】

指導法を工夫し、安全で楽しい柔道授業を各中学校で実践する。

柔道の楽しさを伝える工夫、生徒が相互に学び合う工夫、技能習得の流れをスマールステップで示す工夫、柔道の成り立ちを学ぶ工夫など指導法を工夫し、「技を教え込む授業」から「技能」「態度」「知識、思考・判断」のバランスを重視した授業を各中学校で実践できるようにしていきたい。

協働学習の実現に向けた「知識構成型ジグソー法」の導入により、育成すべき資質・能力を獲得させる特色ある武道（柔道）指導の実践例－ICT機器の活用を踏まえて－

学校名 滋賀県立瀬田工業高等学校 2年

全校生徒数 825名（男子815名 女子15名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 077（545）2510

学校メールアドレス st32153@tch.shiga-ec.ed.jp

1 実践研究のねらい

- （1）思考・判断を工夫する資質や能力、自己の責任を果たす態度を育成する指導方法を研究する。
- （2）武道の特性に触れながら、安全を確保するとともに仲間と運動に親しむ態度の育成を図る。
- （3）上記の（1）および（2）に取り組む中で、体育教員の資質向上を図る。

2 実践研究の概要

- （1）学習用デジタルコンテンツの開発とタブレット端末の使用などのICT活用。
- （2）協働学習の実現に向けた「知識構成型ジグソー法」の導入。
- （3）診断的・総括的評価および運動有能感調査の実施。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 ICT機器の活用（タブレット端末と大型液晶テレビ）

- （1）タブレット端末を5名グループに1台を割り当てた。動画の撮影・再生機能を活用により「知識構成型ジグソー法」による学習が円滑に行えた。
- （2）学習用デジタルコンテンツの開発
 - ① 1つの投げ技の動作の構成要素を「手の用法」、「足の用法」、「受の協力」の三つに分け、それぞれの動きをボタン一つで即座に動画で確認できるように制作した。
 - ② グループ内で用いる相互評価の指標をデジタルコンテンツで作成し、「エキスパート」の指導で大型テレビに表示して解決すべき課題を明確にするように工夫した。

2 「知識構成型ジグソー法」の導入

「エキスパート活動」で知り得た知識・技能をグループの仲間に伝える必要性を生じさせることで（「ジグソー活動」）、思考・判断の源ともいえる言語活動の充実を図った。また「クロス・トーク」においてはグループによる実技活動のプレゼンテーションを指導し、表現力の育成に取り組んだ。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 教師から技を指導する場面で「受の協力」の重要性の指導を徹底した。
- 2 エキスパート活動では「受の協力」をピースとして設定し、けがにつながる動きや、周囲の安全を確保することを指導した。その際、実施に自分の動きで確認させた。

○成果の意義と今後の課題

- （1）この指導実践は新しい時代に必要となる資質・能力の育成のイメージに直結するものとなった。
- （2）武道において協働的学習を取り入れることは、他者と関わる体験として有意義なものであった。
- （3）体育科教育において生きる力の育成をさらに実現するためには、教員の資質向上が急務である。

○ 研究内容

【基礎基本の十分な指導による課題の焦点化】受の協力と安全面重視の指導により、規範的態度が獲得された。



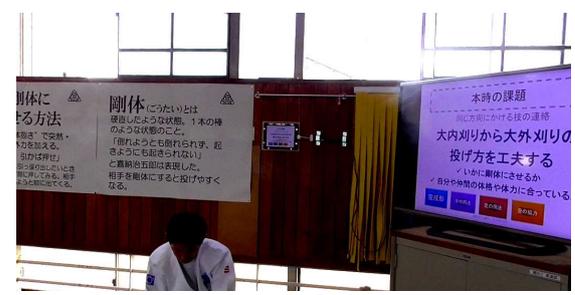
【知識構成型ジグソー法の導入】動画撮影・再生機能を活用したジグソー活動により、思考力・判断力が獲得された。



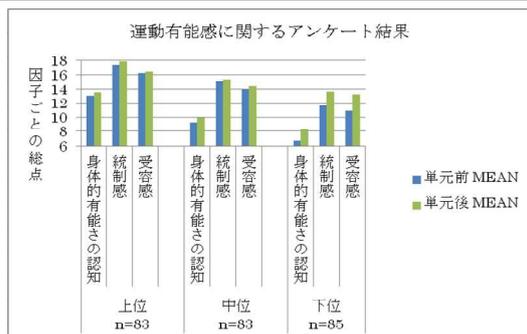
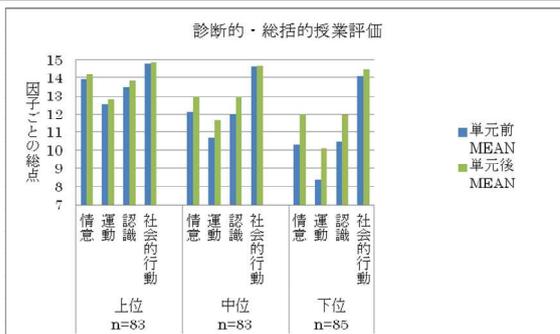
【デジタルコンテンツの開発】技術ポイントを焦点化したコンテンツ開発により、基本的動作が獲得された。



【ICT機器活用、基本用語等の既習事項の掲示】スライド、動画再生、基本用語の整理により、積極的言語活動となった。



【診断的・総括的授業評価と運動有能感アンケートの実施】運動に対する自信を主体的に運動に取り組む一つの姿として捉え、どう変化したかを把握するため実施した結果、体育の苦手な生徒も含め全生徒の愛好的態度及び運動有能感が高まった。



【指導内容や方法の研究を発展的に継続する】高等学校における保健体育科授業実践先進校として、「知識構成型ジグソー法」及び「ICT機器」等の効果的な活用方法の研究に取り組んでいく。

本校の専門高校という特性を鑑みれば、他者と関わりあいながら学び続ける資質と能力の育成は重要である。自他の特性を認識しながら、自分の知り得た知識・技能を伝えることを工夫し、仲間と協力して課題解決を図ることができるようにする指導は思考力・判断力・表現力を高めさせるために継続的に取り組む必要があると考えられる。得られた成果をもとに、指導内容や方法の研究を継続し、実践先進校として取り組んでいきたいと考えている。

外部指導者との連携による、生徒の言語活動の充実を高めた実践例

学校名 三朝町立三朝中学校（鳥取県） 第2・3学年

全校児童生徒数 157名（男子83名 女子74名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0858（43）1397

学校メールアドレス misasa-j@mailk.torikyo.ed.jp

1 実践研究のねらい

- （1） 生徒の言語活動を充実させることで生徒同士の関わり合いを強め、お互いを認め合うことにより自分がかかる技についての自信や、技の習得に対する意欲や向上心を養う。
- （2） 外部指導者と連携して、柔道の基礎的・基本的な知識や技能の習得、柔道の伝統的な考え方や行動を身につける授業を実践する。

2 実践研究の概要

（1） 課題について

本校生徒は剣道、空手、合気道の経験者は若干名いるものの柔道の経験者は全くおらず、技能面でどこまで自分が上達しているのかわからないまま、自信を持たず指示を守って黙々と練習を続ける姿がある。

（2） 期待される成果(仮説)について

クラスメイトや指導者たちからの肯定的なアドバイスや、さらに上達するために必要な助言を受けることにより、生徒一人ひとりが主体的に授業に取り組んでいくようになる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- （1） 自分の能力に応じた「得意わざ」にしたい技を選ばせ、3人1組(本人、相手、審判)で役割を交代しながら、練習や試合を行い学習カードを使ってお互いに評価し合う活動を行った。
※4人組は本人、相手、審判、観察者で行う。
- （2） 外部指導者と連携して練習や試合を観察し、審判法や礼儀作法を含めた専門的なアドバイスを「その都度評価」として行いながら、グループミーティングの際には各ポイントで発言を促し言語活動の活性化を図った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 授業前に施設・設備の点検を実施すると同時に、外部指導者と保健体育教員でその日に扱う技について、指導のポイントや配慮すべき点等の確認を必ず行った。
- 2 冬期の授業であったことから準備運動を入念に行い、けがの防止に努めた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 アンケートの結果などから、「得意わざ」に挑戦しようという目標や、学習カードの活用は生徒の意欲や向上心を高める上でかなり有効性があったと考えられる。一方、運動量の確保と季節を考慮した上でのミーティングに要する時間とのバランスや、学習カードに記入することに熱心なあまり言語活動の充実が十分に図れなかった点など、今後さらに研究や工夫を重ねる必要があると感じた。
- 2 外部指導者と連携して、武道を学習する意義や他のスポーツとの違いを繰り返し指導する中で、生徒たちが主体的に試合を運営し、公正公平に判定を下すことができるようになった。

オリンピックを経験した柔道選手の話を直接聞くことで、武道への関心高め、武道を学ぶ意義を高めた実践例

学校名 浜田市立第三中学校（島根県） 2年
全校児童生徒数 302名（男子142名 女子160名）
種目等 柔道
（本事例に係る問合せ先）浜田市立第三中学校
電話番号 0855（27）1150
学校メールアドレス dai3@hamada.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 柔道が世界で広く普及している理由として、柔道の考え方（「礼儀」、「規律」、「尊敬」、自分で自分を律する克己の心）が共感されていること、そして、学校で武道を学ぶ意義を理解させる。
- (2) 武道を通して学んだことを聞き、武道で学ぶことのできることの多様性や目標に向かって努力することの大切さを理解させる。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

- ① 柔道が世界で広く普及している理由を知り、これからの国際社会において多様性を認め、異なる文化と伝統を尊重する心を育成する。
- ② 武道を通して学んだことを聴くことで、自分自身を振り返り、相手を思いやる気持ち、目標に向かって努力することの大切さを考えさせる。

(2) 期待される成果（仮説）について

- ① オリンピックを経験した柔道選手の話を、生徒に直接語ってもらう機会を設定することで、武道の考え方を知り、学校で武道を学ぶ意義を高めることができるであろう。
- ② 怪我や挫折をいかに克服したかを具体的に聞くことで、相手を思いやる気持ち、互いに高め合う仲間の存在、目標に向かって努力することの大切さを深く考えることができるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 武道を通して学んだことについて

- ① 映像を示すことで、オリンピックまでの道筋や選手の努力を実感できるようにする。
- ② 実際のメダルを生徒に直に触れさせることで、メダルに向かって努力を重ねる選手の姿をイメージしやすくするとともに、選手を身近に感じさせる。

(2) 柔道選手の話を、生徒が主体的に聞けるようにする。

- ① 生徒が選手に直接質問する機会を設定して、生徒が主体的に学べるようにする。
- ② 感想を書く時間を十分取って、一人一人が深く感じるようにする。

○生徒の理解を深めるために配慮（工夫）したこと

- 1 オリンピック選手の体験を通じた話を直接聞くことで、柔道の魅力に触れさせ武道を学ぶ意義を高める。

○成果の意義と今後の課題

1 成果

- (1) オリンピックを経験した柔道選手の話を聞くことで、武道への関心を高めることができた。
- (2) 武道を通して学んだことを聞き、一人一人が感想をしっかりともち、相手を思いやる気持ちや目標に向かって努力することの大切さを深く考えることができた。

2 今後の課題

- ・今回は、場所の制約もあって、2年生による合同という形で行った。このような機会を、次年度どう継続・発展するかが課題である。

○ 研究内容

【講話から】

小学生から続けてきた柔道から学んだことについて熱く語る杉本選手



【講話から】

どんなことも意味がある。「どんなときも笑顔を忘れずに」と終始笑顔の杉本選手



【メダルにふれる体験】

オリンピックメダルを生徒に触らせてくれました。



【質疑応答】

生徒が質問をしたり、感じたことを言ったりする時間をとりました。



【生徒の感想】

一人一人が、しっかりと感想を書きました。

- オリンピックでメダルを取るためには、相当努力しないとわかり、自分はまだまだ努力が足りないなと感じました。最後に話された「失敗をどう生かすか。言われたことを聞き入れるか」はすごく大切なことだと思いました。自分で考えて行動していくと、ときには失敗することもあると思うけれど、最後には正しい答えを導き出せると思うので、そのことを心に入れて生活していきたいです。
- 今日の講演を聞いて、僕は勇気をもらいました。杉本さんのあきらめない気持ちや笑顔に感動しました。メダルにさわらせてもらいましたが、メダルは想像より重かったです。怪我などを繰り返してもリハビリを積み重ね、練習した成果だと僕は思いました。僕は野球部に所属していますが、試合展開の中で苦しいことは何回もあります。そんな中でも失敗を恐れず、笑顔でプレーすることが大切だと、今日の話聞いて思いました。

【本事業を受けて】

武道への関心が高まり、生徒の意欲が向上しました。

オリンピックを経験した柔道選手の話聞いた生徒たちは、柔道の授業に意欲的に取り組むようになった。特に、自分にできる技を増やしていこうと、積極的に活動する生徒が多くなり、授業後の振り返りシートにも、向上を目指すコメントが多くなってきた。また、柔道の授業での練習相手に対する感謝の気持ちをもつ生徒も多くなってきた。

こうして生まれた柔道への関心・意欲を、さまざまな手立てを講じて継続させていきたい。

指導補助員との協力で、教員の指導力を向上させ、生徒が技能を高め楽しさを感じる実践例

学校名 川崎市立菅中学校（神奈川県）中学1～3年
全校生徒数 367名（男子190名 女子177名）
種目 武道（柔道）
電話番号 044-944-8002
学校メールアドレス KES304101@to.keins.city.kawasaki.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 生徒がより高い技術的指導を受け、武道に親しむとともに体力の向上を図る。
- (2) 指導補助員との協力した指導で、教員の指導力を高める。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

- ① 本校には柔道部がなく、また、経験者も少ないことから体育の授業で初めて柔道を経験する生徒が大半である。したがって、技を具体的にイメージすることが難しい。
- ② 武道場がないことから体育館に畳を敷いて授業を行っているので、安全面により一層留意する必要がある。

(2) 期待される成果（仮説）について

武道の専門家を指導者として活用することで、生徒の実態に合わせた技能指導や、きめ細やかな指導をより一層図ることができる。また、指導者が増えることで、安全面の配慮をより確実に行うことができる。さらに、専門家と一緒に武道に触れ合うことにより関心や意欲が一層高まり、積極的に授業に取り組むことができるようになる。また、専門家と事前に打合せをすることにより、教員の指導力の向上も期待できる。

○課題を解決するために実践した具体的な取り組みについて

- ①事前の打合せで、指導補助員に段階的な練習方法や具体的な技能ポイントなどを相談し、生徒がより理解しやすくなるように指導した。
- ②組み手の位置や前回り受身の接地の順番がわかるように生徒の視覚支援をした。
- ③生徒が技の練習を行う際には、教員、指導補助員の複数で巡回指導をすることで、より一層技能ポイントを意識して練習させた。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

本校は体育館に畳を敷き授業を行うため、扉などの隙間の大きさに合わせた板を置き、畳がずれないようにした。また、滑り止めも使用した。

○成果の意義と今後の課題

- ①指導補助員と打合せをし、段階的な指導をすることにより安全に授業に取り組めると同時に、技能の向上が見られた。
- ②指導補助員の声かけを聞いたり、実際に技をかけられたりすることにより、より一層技のポイントを理解することができ、教員の指導力向上につながった。

○研究内容



視覚支援を用いた実践例



安全に授業を行うための場の工夫

◎ 授業後の生徒のふりかえり用紙より

○視覚支援を用いたことによる効果

- ・前回り受け身をするとき手、腕、肩、背中順番で丸く回ることができた。丸いタイヤをイメージして回ることができた。
- ・手→肩→背中→腰について回ると勢い良く回ることができた。
- ・つり手と引き手の位置がわかり、相手を力強く崩すことができた。

○指導補助員が授業に入り込んだことによる効果

- ・実技の本に載っていない技のポイントも教えてくれたので、技がやりやすかったです。
- ・先生と指導補助員が技の手本見せてくれたので、技のイメージができた。
- ・柔道の専門の先生もいて、貴重な経験ができた。礼法なども細かく意識することができた。
- ・約束練習のときに小澤先生に自分から倒れるのではなく、ギリギリのところまできたら受け身をとるとアドバイスされました。
- ・先生と大学生の投げ技を見て、本場の柔道を見ているようだった。柔道のおもしろさを知りました。

◎今後の方向の取り組みの方向性

- ・来年度以降についても、基礎基本を中心とした段階的な指導を心掛けていきたい。また、指導補助員については、生徒の関心意欲がより高くなること、きめ細やかな指導が行き届きやすくなることから継続して活用していきたい。

地域の指導者と連携した授業により、 教員の指導力と生徒の意欲を高めた実 践例

学校名 昭和村立昭和中学校（福島県）1～3年

全校生徒数20名（男子10名 女子10名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0242（57）2201

学校メールアドレス school@showa-j.fks.ed.jp

1 実践研究のねらい

剣道の指導経験が少ない教員が、豊富な指導経験を有する地域スポーツ人材と連携して授業を進めることで、教員の指導力の向上と授業の充実を図る。

2 実践研究の概要

武道が必修化となったが、本校では柔道・相撲の設備がないため、必然的に剣道を行わなくてはならない。しかし、教科担任は剣道の指導経験が少なく、指導にあたっては知識や技術だけでなく安全面においても十分とは言い難い。

そこで、剣道の専門家である、地域スポーツ少年団の指導者と協力して授業を展開することで、より良い剣道の授業を展開することができ、教科担任の指導技術も向上するのではないかと考えた。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）事前の情報交換による共通理解

- ① 授業に入る前に、生徒の実態や指導計画・内容を話し合う場を設け、共通理解を図った。
- ② 講師は地域スポーツ少年団の指導者であり、本校への協力も5年目ということで、生徒達との信頼関係ができています。各学年の実態を踏まえ、上級生には段階を踏んで指導していただいている。

（2）剣道用具の準備と安全面での配慮

- ① 今年度の3年生は木刀による「形」中心に授業を行った。学校には木刀がないため、講師の所属する地域クラブから借りることができた。
- ② 打ち合わせの際に竹刀と防具の点検も行った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 けが防止のため、事前に講師の方と一緒に竹刀のささくれや防具の破損等を一つ一つ点検した。
- 2 けがや体調不良であまり動けない生徒には無理をさせず、別課題での練習とした。

○成果の意義と今後の課題

1 成果の意義

- （1）担当教員が、技術面だけでなく安全面についてもより具体的に専門的な正しい知識を学ぶことができた。また、支援のポイントも身に付けることができ、剣道指導への自信につながった。
- （2）情報交換による生徒理解と剣道の専門的な知識に裏付けられた指導により、生徒たちは意欲的に学習を進め、技能や知識が向上するとともに達成感も味わうことができた。

2 今後の課題

（1）指導の継続と日程調整

- ① 授業実施日が数日間に渡るため、実施困難な日が出てきた。
- ② 地域に学校の様子を発信するという意味でも、今の指導体制を継続したい。

○ 研究内容

【オリエンテーション】

生徒の関心を高めるため模造刀を使って歴史を学ぶ



【指導者と経験者】

指導者と剣道経験者で模範を見せる



【竹刀の手入れ】

ささくれがないように1本1本チェック



【木刀を使って形の練習】

3年生は木刀で形の練習を中心に行った



【授業後のアンケート】

授業後のアンケートと生徒の感想

◎アンケート結果 (ア 思う イ 思わない ウ どちらともいえない)

- | | | | |
|------------------------------------|------|-----|-----|
| 1. 武道に対する意欲は高まった？ | ア 18 | イ 0 | ウ 2 |
| 2. 専門的な技能は高まった？ | ア 14 | イ 0 | ウ 6 |
| 3. 武道の伝統的な行動の仕方や基本動作が身に付いた？ | ア 18 | イ 0 | ウ 2 |
| 4. 武道の専門的な技能について外部指導者の指導力は優れている？ | ア 20 | イ 0 | ウ 0 |
| 5. 外部指導者の言葉づかいや態度は適切だと思う？ | ア 20 | イ 0 | ウ 0 |
| 6. 担当の先生と外部指導者が連携した指導により授業は活性化された？ | ア 19 | イ 0 | ウ 1 |

- ・剣道はスポ少でやっていたが、剣道の歴史の話は初めて聞いたので、ためになった。(1年男子)
- ・足は冷たかったが、基本の動きができるようになってきて楽しかった。(1年女子)
- ・応じ技が決まるととても気持ちいい。来年はもっと上手になれるようにがんばりたい。(2年女子)
- ・「形」は、やってみると意外と楽しかった。(3年男子)
- ・私には、激しい打ち合いよりも「形」が合っていると思った。(3年女子)

【今後の取り組み】

取り組みの継続と内容の見直し

外部指導者は地域での剣道の普及振興に携わっている方であり、生徒との信頼関係もできている方でもあるので、来年度以降も継続して指導をお願いしたい。また、生徒の実態を踏まえ、授業時数や内容については改善していく必要性を感じた。

地域指導者の活用による
効果的な剣道指導

学校名 輪島市立門前中学校（石川県）1・2年
全校児童生徒数 87名（男子49名 女子38名）
種目等 剣道
電話番号 0768（42）0260
学校メールアドレス mnjh118@po.city.wajima.ishikawa.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 生徒の剣道に対する興味・関心を高める。
- (2) 生徒の剣道技能の向上を図る。
- (3) 安全面の向上と生徒の礼法の習得を図る。
- (4) 体育指導教員の指導力の向上を図る。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

体育指導教員の剣道に対する知識や指導力の不足とそれに伴う生徒の剣道授業に対する意欲の低下

(2) 期待される成果（仮説）について

剣道有段者による指導・助言を通して、授業の安全面の向上と正しい礼法の習得が一層図られる。

また、講話や模範演技の実施、指導内容の工夫により生徒の剣道に対する興味関心を高め、技能の向上と体育指導教員の指導力の向上が図られる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) アンケートによる生徒の剣道に関する興味・関心や課題等の実態把握
- (2) 興味を持たせるための学習内容の工夫（新聞切り、ボール打ち等）
- (3) 用具の工夫（竹刀へスポンジの取り付け）
- (4) 防具の装着時間の短縮（帽子型頭巾、簡易な着け方、計測）
- (5) 地域指導者による講話と模範演技、指導・助言

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- (1) 竹刀のささくれや弦の緩み、中結の点検と修理。
- (2) 床の支柱蓋をテープでふさいで、足が引っかからないようにした。
- (3) テープを目印に練習場所を指定し、隣のペアとぶつからないように配慮。
- (4) 安全点検項目を掲示し、ペアで互いの防具の着装点検

○成果の意義と今後の課題

剣道経験者でないかぎり、初めて剣道に取り組む体育教師にとっては、研修会に参加しているだけでは安全面や技術面の指導に不安があり、こうして外部指導者がT.Tとして入ってもらうことで、安心して指導ができる。目の前で模範演技が見ることができ、適切なアドバイスがその都度行われることから、生徒の技術面の習得とともに教師の指導力向上にも効果が大きかった。また、剣道の魅力を語ってくれるので、生徒の剣道への興味・関心も高まった。外部指導者が地域の方ということで時間割の変更があってもすぐに対応できるので、計画通りに授業を進めることができた。ただ、連続していない授業では、いったん帰宅し、再度出てきてもらうことがあったので、時間割の変更が課題である。

○研究内容

【地域指導者とのT.T】
専門的な観点からの技術指導



【防具の装着時間の短縮】
帽子型頭巾、簡易な付け方



【用具の工夫】
スポンジを取り付けた竹刀



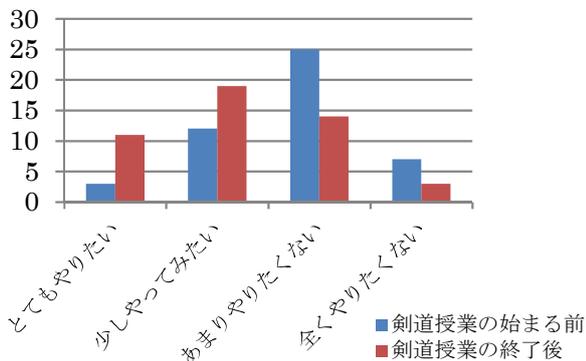
【掲示の工夫】
授業の流れと安全点検項目



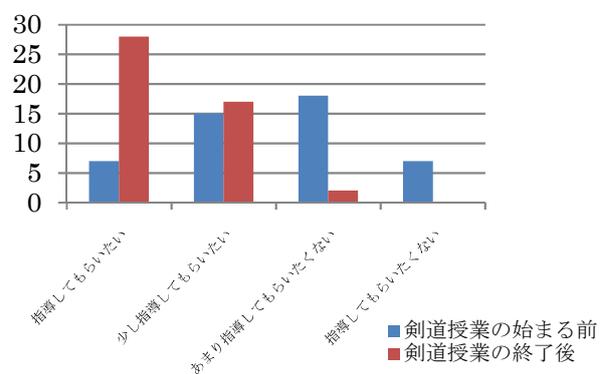
【剣道授業の生徒評価】

地域人材の活用や剣道授業に対する意識の変化

剣道の授業への興味・関心



地域の方の指導への期待



【地域指導者との連携継続】

生徒アンケート結果でも明らかなように、外部指導者の活用は、剣道学習への意欲向上や技能習得に大変効果的であった。また、体育指導教員の指導力向上にも大きな成果が上がった。さらに、地域の指導者であることから連携がとりやすかった。今後も、こうした地域の指導者の活用を継続していくために経費の捻出と他の領域においても人材発掘を進めていきたい。

地域の指導者の協力を得て、生徒の実態に応じた指導を行い、生徒の学習意欲を高めた実践例

学校名 岡山県立岡山聾学校（岡山県）1～3年

全校児童生徒数 67名（男子35名 女子32名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 086（279）2127

学校メールアドレス okaro@pref.okayama.jp

1 実践研究のねらい

- （1）地域の指導者の技術及び安全における専門的な知識や指導力を活用した授業の在り方を探る。
- （2）生徒の実態に応じた指導を行い、楽しみながら積極的に学習に取り組む工夫をする。

2 実践研究の概要

- （1）本校は特別支援学校（聾学校）であり、生徒は聴覚障害のため、人工内耳や補聴器を装着しているため、技能面だけでなく障害の程度に応じたきめ細やかな指導が必要である。また、事前アンケートでは、剣道に対して「痛い」「厳しい」と回答するなど、剣道に対して肯定的なイメージは少ない。
- （2）専門的な知識・技能を有する地域の指導者と連携をしながら授業を行うことにより、安全に対する配慮や個に応じたきめ細やかな指導が行えるので、楽しみながら積極的に学習に取り組むことができるようになる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）地域の指導者と連携した学習指導の推進

- ① 教員が指導・支援や手話通訳を行い、地域の指導者が剣道の所作の説明や基本となる技の細かい指導を行うTTでの指導を行った。
- ② 地域の指導者と事前に打ち合わせを行い、毎時間の流れと指導内容を確認し、指導方針を共通理解した。

（2）楽しみながら積極的に剣道の学習に取り組む工夫

- ① 面を着けることができないことから、新聞紙を使ったスポーツチャンバラを取り入れ、楽しみながら剣道の攻防の楽しさに触れることができるようにした。
- ② 事前指導で基本用語や基本動作をまとめたDVDを見せる等し、剣道に対して興味・関心を持たせるようにした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 聴覚障害があり、人工内耳や補聴器を装着していることから、面などの防具は着けず、基本動作や基本の打ち方を確実に身に付けさせるようにした。
- 2 竹刀の取り扱いについて、指導を徹底した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 地域の指導者との綿密な打合せや、役割分担を明確にすることにより、教員が手話通訳をしたり、用語カードを提示したりすることができ、生徒の実態に応じた指導を行うことができた。
- 2 地域の指導者との共通理解のもとで指導できたことにより、生徒の武道に対する積極性や技能の向上が図られた
- 3 地域の指導者との連携により、聴覚障害を持つ生徒の実態に応じた指導を行い、意欲や技能の向上が図られたが、知的障害を併せ持っている生徒もいることから、個に応じた指導について今後も研究を重ねていく必要がある

○ 研究内容

【指導隊形の工夫】

指導者・手話通訳者がよく見えるように、半円にした。



【指導内容の工夫】

新聞斬り、スポーツチャンバラ等を行った。



【指導方法の工夫①】

用語カードと手話による説明を行った。



【指導方法の工夫②】

基本打突は、教員を相手に行った。



【生徒の意欲の向上】

授業前のアンケートでは、「痛い」「厳しい」という剣道に対して意欲的でない回答が多く見られたが、生徒の実態に応じた指導を行うことにより、「楽しかった」「またやりたい」という意欲的な回答が多く見られるようになった。

事後アンケート結果（抜粋）

①興味や親しみを持つことができましたか。

㊦ はい	11
㊧ いいえ	1

②剣道を学んでみてどう思いましたか。

㊦ おもしろい	7
㊧ 怖い	1
㊨ 強くなれそう	5
㊩ 痛い	1
㊪ 礼儀を重んじる	3
㊫ 厳しい	3
㊬ 歴史・伝統を感じる	1
㊭ かっこいい	3
㊮ 集中する	4
㊯ 寒い	0
㊰ その他	1

③来年も学んでみたいと思いますか。

㊦ やってみたい	5
㊧ できればやってみたい	5
㊨ あまりやりたくない	1
㊩ やりたくない	1

地域スポーツ指導者との連携 による武道授業の在り方

学校名 下関市立内日中学校（山口県）全学年
 全校児童生徒数 25名（男子14名 女子11名）
 種目等 武道（剣道）
 （本事例に係る問合せ先）
 電話番号 083（289）2431
 学校メールアドレス
 utsui-chu@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 地域スポーツ指導者の専門的な指導により、生徒の関心や意欲が高まることが期待できる。
- (2) 地域スポーツ指導者との連携により、剣道の歴史、礼法及び伝統的な行動の仕方についての指導の在り方を探る。
- (3) 公開授業を実施し、地域内の保健体育科教員の資質向上を図る。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

1年生においては、剣道未経験者が多く、剣道を授業で行うことに対して、抵抗感がある。上級生に関しては、昨年经验していることもあり、課題意識をもって取り組む生徒も見られた。

(2) 期待される成果（仮説）について

専門的な指導により、知識・技能の背景にある我が国固有の文化や伝統的な考え方を学ぶことができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 地域スポーツ指導者と連携した剣道授業の実施

- (1) オリエンテーションの内容について、地元である内日地区の剣道の歴史を取り扱い、生徒の不安や抵抗感を解消できるよう工夫した。
- (2) リズム剣道など、多様な指導法で生徒の意欲を向上させた。
- (3) 学習カードにより、自己評価を行った。
- (4) 3学年同時に授業を行うことで、教え合う場面が多く生まれた。

2 公開授業の実施

- (1) 地域内の保健体育科教員対象に公開授業を行った。
- (2) 本県においては、授業での実施割合の少ない剣道の指導力向上をねらいとして実施した。

剣道学習カード		
氏名() 第 級 年 月 日		
(1) 授業中の少人数評価 40分程度行う。20分程度行う。20分程度行う。10分程度行う。		
①	積極的に授業に取り組んだ。	評価
②	課題に対して志願して取り組んだ。	
③	相手の尊重し、礼儀作法を身につけた。	
④	仲間と協力して、互いに励ましあうことができる。	
⑤	基本動作が理解できている。	
⑥	相手の動きに応じて、自然体で構えることができる。	
⑦	相手の動きに応じて歩み寄りの動作をすることができる。	
⑧	習得した動作を正確に行うことができる。	
⑨	剣道に関する専門的な知識が理解できた。	
(2) 剣道の授業を通しての気づき・感想		

(3) 次の授業での課題		

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 防具の着け方や打ち込みなどの活動、防具や竹刀の点検等を、地域スポーツ指導者と共に複数による確認を行い、安全面に配慮した。
- 2 地域スポーツ指導者からの専門的な指導により、伝統的な行動の仕方を身に付ける上で大切である「相手を尊重する」ことを学び、怪我等の防止に繋げた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 リズム剣道などの多様な指導法や適切な声かけにより、生徒の興味・関心の高まりや技能の向上が見られた。
- 2 公開授業を行った結果、地域内の保健体育科教員の資質向上に繋がった。こういった経験を踏まえ、より多くの学校が剣道を選択することが可能となる。
- 3 最後の試合に向けて生徒に達成感をもたせるために、地域のスポーツ指導者と連携してどのような単元計画を立てるかが課題である。

○ 研究内容

【オリエンテーションの様子】

地域スポーツ指導者と連携し、内日地区の剣道の歴史や学習内容の確認を行った。



【手刀での基本動作の説明の様子】

地域スポーツ指導者による手刀での面打ちの基本動作の確認を行った。



【リズム剣道の様子】

音楽に合わせて基本打ちの練習を行った。



【防具をつける様子】

協力して防具をつけるなど、教え合いの場面が見られた。



【アンケートの結果】

事前事後にアンケート（感想を含む）を行い、本取組の客観的な評価とした。

「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは得意ですか」と「あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切なものですか。」という質問項目に対して、肯定的な回答をした生徒の割合に増加が見られ、運動に対する興味・関心の高まりを感じた。

（授業終了後の生徒の感想）

今回の授業で、私は日本の武道にもっと触れてみたいと思いました。しかし、中学校での授業は終わってしまいましたし、高校の授業でこんなにしっかり武道に触れられることはないと思います。それでも、私は武道がしてみたいので、武道を学べる部活に入りたいと思います。

剣道の授業で外部指導者を活用することにより、指導歴、研修歴が浅い教員の指導力、資質能力を効果的に高めることができた実践例

学校名 西条市立東予西中学校（愛媛県）1年
全校生徒数 149名（男子76名 女子73名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0898（66）5042
学校メールアドレス toyonishi996@yahoo.co.jp

1 実践研究のねらい

- （1）地域の外部指導者を活用することによって、生徒の剣道への興味関心が高まり、剣道の授業をより意欲的に取り組めるようにする。
- （2）外部指導者の講義や指導方法から教師自身が学び、指導力の向上を図る。

2 実践研究の概要

- （1）教師の剣道指導歴、研修歴が浅いため、生徒への効果的な指導が困難であった。そこで、外部指導者を招き、その指導を通して生徒と教師がともに学ぶことができると考える。
- （2）外部指導者から剣道の様々な作法や竹刀の振り方、面・胴の打ち込み方等の技術を学ぶことによって、生徒の意欲が高まり、生徒が効果的に剣道の技術を習得できると考える。
- （3）外部指導者の指導方法から教師自身が学ぶことによって、今後の指導に生かすことができると考える。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）外部指導者との事前打合せ

今回招へいた外部指導者は、以前から本校剣道部の指導に携わっていただいている地域の方であるので、生徒の実態を理解しやすく、指導内容を考える際にもスムーズに進んだ。また、外部指導者と教師が事前に他校の授業を参観し、指導内容についての打合せを行った。

（2）教具の工夫

剣道の特性である「攻防の楽しさ」を生徒が体感できるようにするために、簡易の防具や竹刀を取り入れ、装着時間を短縮するとともに、生徒の恐怖心が和らぐように配慮した。

（3）グループでの学び合いを取り入れた授業展開

リーダーを中心にグループで基本練習や実践練習を行った。その中で他者の動きを見る時間や互いの運動の様子を伝え合う時間を確保し、アドバイスし合えるようにした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 塩化ビニール製のパイプの外側にスポンジを巻いた簡易竹刀を作製した。
- 2 面の代わりに自転車用のヘルメットとゴーグルを用いて頭部と顔を防御できるようにした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 外部指導者の指導を通して、生徒は、剣道の基本的な動きや攻防の楽しさを学ぶことができた。そして、剣道への恐怖心が和らぎ、意欲が高まった。
- 2 教師は、自己の指導力を向上させるために、今後も研修を重ねていく必要がある。

○ 研究内容

【礼儀作法】

正座の仕方や左座右起の作法、礼の仕方等を学ぶ。



【模範指導】

構えや竹刀の振り方、面打ちや胴打ちの模範から学ぶ



【グループでの学び合い】

気・剣・体について互いの様子を伝えアドバイスし合う。



【グループ対抗戦】

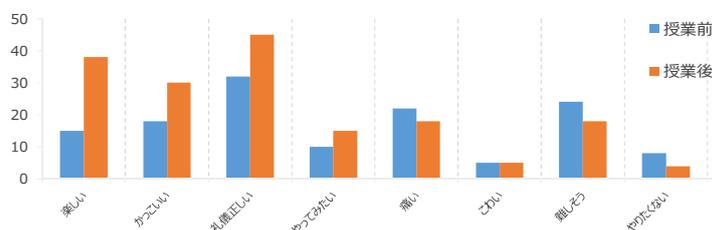
試合、審判、記録等の役割を果たして対抗戦を行う。



【アンケート結果】

授業前後のアンケート結果より考察した。

授業前後の剣道に対するイメージ



授業前後の生徒の剣道に対するイメージを比較すると、良いイメージの項目で人数が増加し、悪いイメージの項目で減少している。このことから、授業を通して、剣道に対して肯定的なイメージをもつ生徒が増えたと考えられる。

【今後の取組】

攻守を交えた試合へと発展させたい。

来年度も実施したいと考えている。1年生では、今年度の取組を継続したい。また、今回の学習では、単元の終末に面・胴打ちについて「攻め」と「守り」を決めて対抗戦を行ったが、2年生では、小手打ちを含め、攻守を交えた試合を行いたいと考えている。

優れた指導力を有する大学教員と連携した武道（剣道）の実践例
～自己効力感・自尊感情を高める授業づくり～

学校名 高知市立行川中学校（高知県）3学年
全校児童生徒数 20名（男子11名 女子9名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 088（844）3095
学校メールアドレス namegawa-j@kochinet.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 相手を尊重する態度の育成
- (2) 心身のつながりを通じた楽しい授業づくり

2 実践研究の概要

生徒の特徴として、自己効力感・自尊感情の低さが挙げられ、それが要因となり課題に挑戦しようという意識も低いことが見受けられる。そこで、剣道の授業を通して「できる」という見込み感を高め、達成動機を高めることができる授業内容を検討し、外部指導者と連携して行う。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 導入として、授業の初めに生徒が関心をもちそれが自己効力感や動機づけの高まりに繋がるような心理学的な1テーマを選定し、そのテーマについて大学教員がミニ講義を行った。(5～10分)。
- (2) 授業の「めあて」は80%の達成度を想定し、授業の中でも自分自身が初めて取り組む課題であっても、明確な目標を設定し、「できる」という見込み感を強く持って取り組むことで、目標達成が可能になるという意識を高める方法（スモールステップ）を用いた。
- (3) 教員及び大学教員（T2）は、うまくできない箇所を指摘するのではなく、まずは「できた」箇所を強調し、生徒の達成動機の上昇を促すことを意識した。
- (4) 各回の授業の振り返りにおいて、①自己効力感、②自尊感情の測定、③自己充實的達成動機の測定を行った（5分）。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 授業規律を徹底する。
- 2 正しい剣道具の使用方法の確認と、運動の行い方を理解させる。

○成果の意義と今後の課題

- 1 相手を尊重する態度を育てるために、礼儀作法について毎時間、指導をおこなった。毎時間指導する中で、生徒自身に相手を尊重する気持ちや態度が芽生えてきた。
- 2 心身のつながりを通じた授業を行うために、心理講義を毎時間授業の導入におこなった。生徒は、授業を行うたびに、自信をもち楽しく授業が行えた。
- 3 授業の振り返りの結果から授業後に生徒の自己効力感、自尊感情、自己充實的達成動機の上昇が認められ、特に自己効力感と自己充實的達成動機の上昇は顕著であった。自己効力感、自尊感情、自己充實的達成動機すべてにおいて、低下した者はいなかった。

○ 研究内容

【矢野先生による説明】

授業の初めに生徒が関心をもちそれが自己効力感や動機づけにつながる説明をする。



【剣道を知ってもらおう】

木刀や模擬刀に実際に触れてみて、興味を持ってもらう。



【すり足に慣れよう】

説明文：普段やることのないすり足をカッパリレーとして、頭上にマーカーを置いて行った



【竹刀を使って新聞を斬ろう】

説明文：竹刀に慣れるために、新聞斬りを行った。



【防具をつけよう】

防具を着ける際は、二人一組や教員が入って行った。



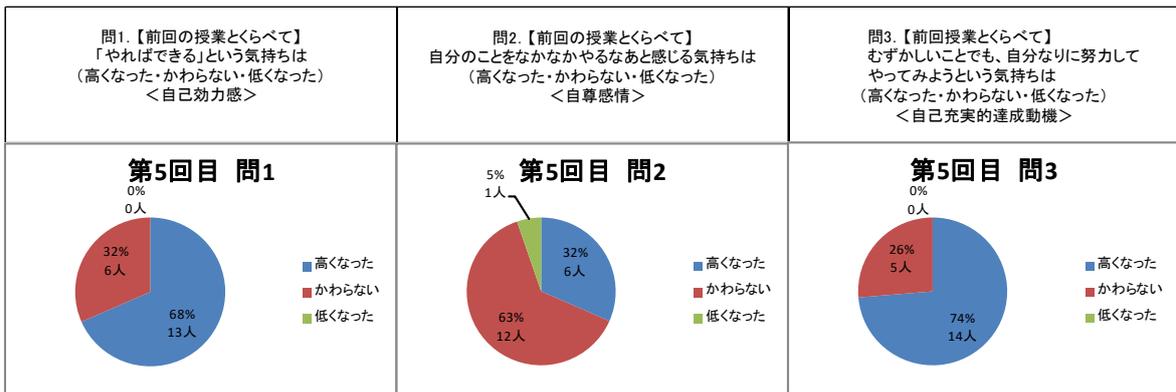
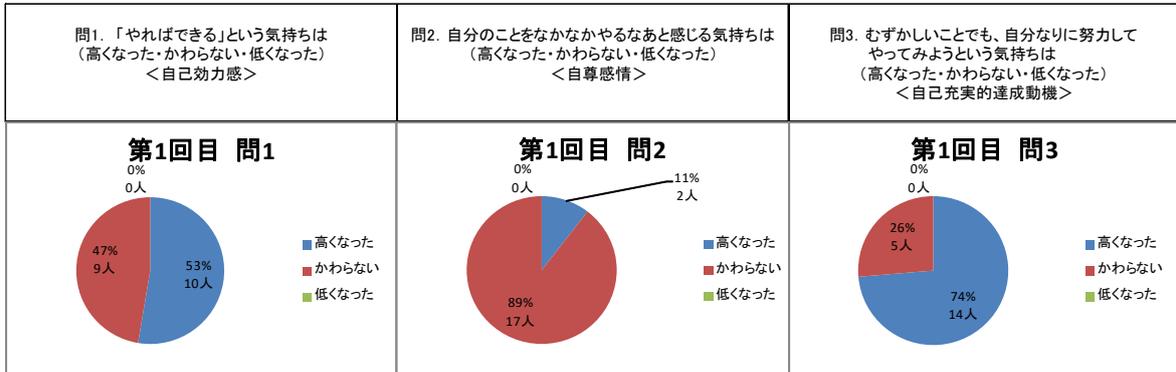
【二人一組で基本技を練習しよう】

説明文：実技のテストは、面・小手・胴を行った。また、各学年でグループを作り、演武を披露した。



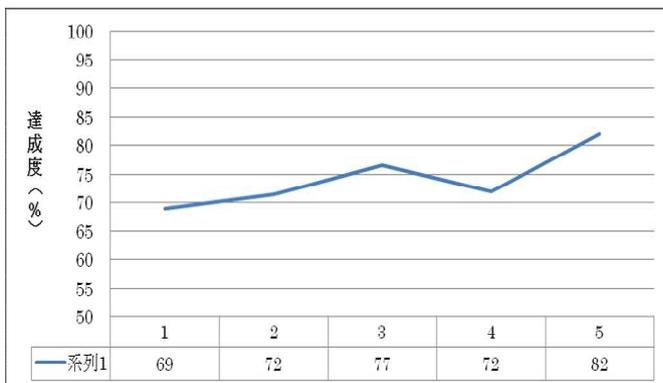
【授業の振り返り】

各回の授業の振り返りにおいて、①自己効力感、②自尊感情の測定、③自己充實的達成動機の測定を行った。
 自己効力感（問1）については、授業後に変わらなかった1名を除く18名が上昇した。低下した者はいなかった。
 自尊感情（問2）については、10名が上昇し、変わらなかった生徒が9名であった。低下した者はいなかった。
 自己充實的達成動機（問3）については、17名が上昇し、変わらなかった生徒が2名であった。低下した者はいなかった。



【剣道授業における「めあて」の達成度】

各回の授業で「めあて」を提示し、そのめあてをどれだけ達成できたかを分析すると、概ね 70%～80%の間にあり、各回のめあての設定と授業内容は適正であったと考えられる。



第1回目 授業のめあて	①礼儀作法を正しく理解する。
第2回目 授業のめあて	②竹刀の持ち方、構え方をきちんと理解する。
第3回目 授業のめあて	①竹刀の振り方・構え方が正しくできる。 ②発声をしながら相手の竹刀を打つことができる。
第4回目 授業のめあて	①剣道具をつけて、相手を打つことができる。 ②剣道具をつけて、相手を打たせることができる。
第5回目 授業のめあて	①剣道具をつけて、すべての部位を正しく打つことができる。 ②剣道具をつけて、すべての部位を正しく打たせることができる。 ③発声、打突、残心までが、一連の動きとしてできる。
第5回目 授業のめあて	①みんなの前で演武ができる。 ②相手を思いやりながら、打つこと・打たせることができる

木刀と竹刀を併用し、剣道の文化的特性を理解させる剣道授業の実践例

学校名 伊万里市立国見中学校（佐賀県）1年

全校児童生徒数 298名（男子 164名 女子 134名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0955（23）5195

学校メールアドレス kunimi-j@mail.saga-ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者の専門性を生かし、木刀と竹刀を併用することで、剣道の文化的特性を理解し意欲的に学習に取り組ませる指導法の在り方を探る。
- (2) 外部指導者と連携をとり、効果的な学習形態や学習教材を取り入れ、話し合い活動や言語活動の充実を図る指導内容の在り方を探る。

2 実践研究の概要

- (1) 初めて剣道を学習する生徒に、「難しそう、痛い」というイメージを取り除き、剣道の特性に触れさせ、対人的技能を段階的に学ばせることが課題である。
- (2) 外部指導者の専門的な指導と木刀と竹刀を併用する指導法で、対人的な技能の向上と伝統的な考え方や行動の仕方が身に付くことが期待される。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 木刀による剣道基本技稽古法を取り入れた導入の工夫
 - ① 導入の段階で木刀を持たせ、剣道が刀法であることを意識させたことで、剣道の歴史的な背景や伝統的な行動の仕方を身につけさせることができた。また、その後、竹刀を持ったときに柔らかい手の内の作用にもつながった。
 - ② 木刀による剣道基本技稽古法の中から、4本を抜粋し、竹刀を用いた基本技、応じ技とのつながりをもたせることでスムーズな技の習得に至った。
- (2) 話し合い活動や言語活動を取り入れた指導内容の工夫
 - ① 3人組のグループ活動を基本とし、技の練習を行った。掛かり手、元立ちでないときは観察者として、気づきをアドバイスするようにして、学び合いができるような場を設定した。
 - ② 学習カードに技術的なポイントを示し、自分で学習課題を見つけて意欲的に学習できるようにした。また、お互いに友達とアドバイスを記入し合い、意識して友達の動きを見るようにさせ、グループ活動の高まりを図った。
- (3) 外部指導者との連携
 - ① 外部指導者と連携し、授業の流れ、指示、説明は保健体育教員が行い、技術的な指導や講話は外部指導者に丁寧に指導していただいた。
 - ② 事前の打合せとともに、特に、授業後、生徒の活動の様子を見ながら、実態に応じて指導法や学習形態などについて話し合う時間を多くとった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 竹刀や防具の点検、床（ささくれ、支柱受けの金属のふた）の点検事項を、学習カードやホワイトボードに提示し、安全に学習できるよう意識付けを行った。
- 2 安全確保のため、グループ間の間隔、掛かり手と元立ちの立ち位置、動きの方向を統一するとともに、男女別、同程度の体格の者同士でグループを組ませた。
- 3 単元計画に沿って、生徒の実態に応じて段階的に技の練習を行った。
- 4 木刀使用時には、遠間で打突部位に当たらないように距離を保つように心がけさせた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 外部指導者の長年の幼少年指導における専門的、段階的な技術指導により、効果的に技を習得できた。また、木刀と竹刀を併用したことで、剣道の伝統的な行動の仕方、考え方など特性に触れながら学習に取り組むことができた。
- 2 グループ内で教え合いをする場合に、タブレット端末で動画を撮影し、動きを修正したり、よい動きを参考にしたりすると言語活動の充実につながると考える。運動量の確保を前提に、機会をとらえたICTの利活用が必要である。

○ 研究内容

【木刀を用いた形の稽古】

木刀による剣道基本技稽古法



【グループでの話し合い活動】

ホワイトボードを使って練習内容を話し合っている様子



【授業終末の外部指導者の講話】

武道の伝統的な行動の仕方、考え方など



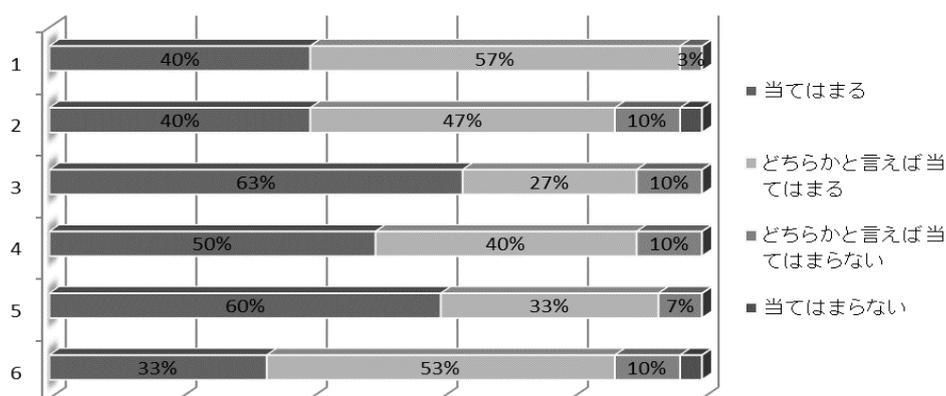
【外部指導者の技術指導の様子】

一斉指導による基本打ち、踏み込み足の稽古



【剣道の授業に対する意識・取組に関するアンケート調査】

授業後のアンケートから、外部指導者の指導により、技術面での高まりや伝統的な行動の仕方などが身に付いたと言える。



【アンケート項目】

- 1 (授業前より) 剣道の関心意欲が高まりましたか。
- 2 剣道の技能は高まりましたか。
- 3 剣道の伝統的な考え方や行動の仕方が身に付きましたか。
- 4 剣道の文化的・伝統的な特性を学習前よりも理解できましたか。
- 5 外部指導者の技術指導は参考になりましたか。
- 6 剣道の授業は楽しかったですか。

【本事業の成果と課題】

外部指導者との連携、剣道の文化的特性を重視した授業作り

授業後のアンケート調査から、初心者にとって技術面での上達はもとより、剣道の特性に十分触れることができた授業内容であったと言える。外部指導者の丁寧な指導や単元の初めに木刀を使用し、形稽古を取り入れたことが効果的だったと考える。

今後は3年間を見通した剣道授業の学習内容の見直し、充実した言語活動やICTの利活用など、生徒一人一人が意欲的に取り組む授業作りに努めていきたい。

楽しく安全な
武道（相撲）の授業を
目指して

学校名 能登町立能都中学校（石川県）
全校児童生徒数 142名（男子79名 女子63名）
種 目 武 道 （ 相 撲 ）
電話番号 0768（62）0162
学校メールアドレス noto-jsc01@noto.ed.jp

- 1 実践研究のねらい
 - (1) 楽しい武道の授業の実践
 - (2) 安全な武道の授業の実践
 - (3) 教員の相撲の指導力向上
- 2 実践研究の概要
 - (1) 課題について
 - ・生徒が持っている武道（相撲）に対する抵抗感
 - ・安全な用具や施設の確保
 - (2) 期待される成果について
 - ・武道（相撲）に対する抵抗感が取り除かれ、武道好きの生徒が増える。
 - ・安全な用具や施設を確保することで、生徒のケガを減らす。
 - ・初めて取り組む武道（相撲）についての教員の指導力が向上する。

○課題を解決するために実践した具体的な取り組みについて

- 1 具体的な取り組み内容・方法、取り組みを進める上での工夫点等
 - (1) 相撲の専門的な知識を有する地域の外部指導者を活用し、授業に取り組む前に入念な打合せを行い、楽しく相撲ができるように授業計画を作成するとともに、教員の指導力向上に努めた。
 - (2) 生徒の抵抗感を取り除くために相撲パンツを人数分用意するなど、用具を工夫した。また、相撲マット（大・小）を2種類用意し、活動に応じて使い分けた。
 - (3) 生徒、特に女子生徒の相撲に対する抵抗感を取り除くため、比較的小柄な女子相撲の選手を招へいした。
- 2 実践研究の概要

武道が必修化され、4年が経過したが、球技等に比べ、武道に楽しさを感じていない生徒が多い。生徒が、「武道が好きだ」と感じ、意欲的に授業に取り組めるようにするために、我が国固有の文化で、国民から広く愛されている「相撲」に、石川県内中学校で必修化以降初めて「相撲」に取り組むこととした。「相撲」に取り組むことで、生徒の武道に対する興味関心を高め、楽しく、安全に武道の授業を展開するとともに、外部指導者と効果的な連携体制を構築し、授業を計画する課程等で教員の指導力を向上させることとした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 相撲の技能の中から「押し」の技能を中心に授業を進めたこと
- 2 禁じ技等の指導を徹底したこと
- 3 相撲マット等の確保（用具の確保）

○成果の意義と今後の課題

まわしを使用せず、相撲パンツを着用することで相撲特有の容姿に対する抵抗感を取り除くことができた。また、友達と組み合せて「押し」の技能を中心に活動することで、仲間と触れ合うこと、押して勝敗を競うといったわかりやすい内容が生徒の楽しさにつながった。

また、授業の中に女子相撲の競技者を招へいし、技能指導や試合等を行ったことが、生徒の心に強く印象に残っており、女子生徒の相撲に対する抵抗感がかなり取り除かれたと思われ、非常に効果的であったと思われる。

課題としては、外部指導者の確保や日程を調整することが困難であることが挙げられる。また、用具・施設も比較的簡単に準備できるとはいえ、安全の確保の為には、さらに充実させることが必要である。

○研究内容

【学習内容の工夫：押しの練習】

相撲マットの上で中腰の姿勢からの押しの練習



【女性競技者の招へい】

女性指導者に技能の指導や試合を行った。



【本格的な土俵セットでの試合】

単元の最後には、本格的な土俵をセットし、オーダー表を書いて団体戦を行った。



【相撲パンツの導入】

体操服のズボンの上から着用でき、抵抗感なく履くことができる。

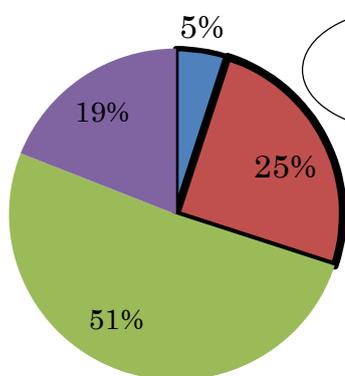


【相撲に対するイメージの変化】

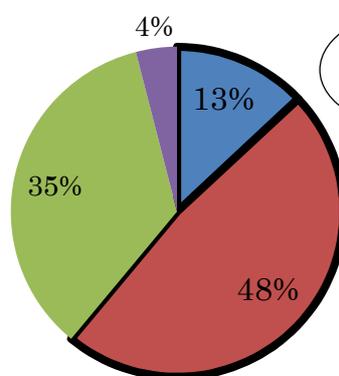
相撲に対する持っているイメージのアンケート調査を、単元開始前と終了後に行った。

相撲をやってみたい（事前）

また相撲をやってみたい（事後）



30%



61%

■とてもそう思う ■どちらかというと思う ■どちらかというと思わない ■全くそう思わない

地域の特色・人材を生かした
「相撲」授業の取組

学校名 萩市立田万川中学校（山口県）全学年

全校児童生徒数 54名（男子24名 女子30名）

種目等 武道（相撲）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0838（54）2008

学校メールアドレス Tmgw556@edu.city.hagi.lg.jp

1 実践研究のねらい

- （1）地域スポーツ指導者を活用することで、生徒が相撲に関する知識や技能を学ぶとともに地域の特色・人材を生かし、田万川地域で伝統的に親しまれてきた相撲文化の伝承を図る。
- （2）地域スポーツ指導者と連携して授業を行うことで、保健体育科教員の専門的な知識や技能の習得による指導力の向上を図る。

2 実践研究の概要

（1）課題について

学習前の相撲に対する生徒の意識は、2・3年生については、昨年度の経験もあり意欲的であったが、1年生については、「怖い」「痛そう」「はずかしい」「乗り気ではない」等の意見も多い。また、まわしの装着等服装面にも不安を抱く生徒もいる。

（2）期待される成果（仮説）について

教員の指導力の向上による授業改善は、子どもの体力や意欲の向上につながると考える。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 地域スポーツ指導者と連携した相撲の実技学習

- （1）安全に実施するための心構えと基本動作の習得を指導の基本とした。
- （2）相撲の歴史等の文化的側面と互いに力をぶつけ合う相撲の奥深い楽しさを生徒に味わわせることをねらいとして、学習内容を精選し実施した。
- （3）服装の工夫として、ジャージまたはハーフパンツの上からまわしをしめる形とした。
- （4）練習形態の工夫として、地域スポーツ指導者2名による指導で、全体指導後は、男子と女子を別々に担当し、きめ細かな指導者や支援を行った。

2 相撲大会の実施

- （1）会場や対戦表等の掲示物の準備や進行係や審判などの分担した役割に積極的に取り組むことをねらいとして相撲大会を実施した。
- （2）単に試合の勝敗を目指すのではなく、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする態度を育てることをねらいとした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 地域スポーツ指導者2名による指導で、全体指導後は、男子と女子を別々に担当し、きめ細やかな指導や支援を行った。
- 2 会場の工夫として、全ての授業を体育館で実施し、簡易型の室内土俵を二面用意し、安全の確保と授業の効率化を図った。

○成果の意義と今後の課題

- 1 専門的な技能と知識に基づいた指導を受けることにより、国技である相撲についての理解を深め、興味・関心を高めることができた。
- 2 最初は相撲に対する不安が見られた1年生女子も、地域スポーツ指導者の熱意と温かい言葉がけによって、すぐに不安が取り除かれて、意欲的な場面や様子が見られるようになった。
- 3 保健体育科教員にとっても、授業の展開の仕方や説明の仕方、大会運営など、大変参考になることが多く、今後の武道指導の充実に向けて、本事業の果たす役割は大きいと感じられた。
- 4 相撲大会については、田万川中学校の年間行事の一つとして、継続的に開催していきたい。

○ 研究内容

【室内用簡易土俵使用の様子】

床にマットを敷き、その上にビニール製のシートを被せる。俵はマジックテープで脱着する仕組みとなっている。



【基本動作の様子】

塵浄水、蹲踞、四股を毎時間、準備運動をかねて実施した。



【取組の様子】

押し相撲や寄り相撲を重視し、土俵際に腰を割ることと、相手に対する心配りも合わせて学習した。



【審判の様子】

相撲の取組を行うだけでなく、相撲の審判を経験することで、審判の手順で決まり手を学習した。



【授業終了時点の生徒の感想】

意欲の向上や外部指導者活用に対する肯定的な意見が多くあった。

初めて相撲の授業を体験しました。最初は、まわしを付けるのがはずかしく、うまく付けることができなかったのですが、講師の先生方の分かりやすい指導のおかげで、自分たちだけでまわしを付けることができるようになりました。蹲踞や四股、塵浄水などの基本的な動作など、いろいろなことを教えていただき、勉強することができました。今回の授業で「楽しい」と思えたのは、教えていただいた講師の方々、環境のおかげだと思います。初めての相撲体験でしたが、相撲の楽しさに気付きました。

【事業終了後の取組の方向性】

～地域と連携して～

今後もコミュニティ・スクールとしての特徴を生かし、相撲競技に対する土壌のある田万川地域と連携し、より充実した活動になるよう授業の可能性を拡げていきたい。

武道の授業を指導する
教員の指導力向上を
目指した取組

学 校 名 石川県教育委員会
種 目 等 武道等（柔道・剣道・相撲）
（本事例にかかる問合せ先）
電 話 番 号 076（225）1853
メールアドレス（代表） i-sports@pref.ishikawa.lg.jp

- 1 実践研究のねらい
 - （1）保健体育科教員等の指導力向上
 - （2）安全で効果的な指導の充実
 - （3）学校と外部指導者との連携体制の構築と外部指導者の授業での活用
- 2 実践研究の概要
 - （1）課題について
 - ①学習指導要領が改訂され4年目を迎え、安全な指導について意識の低下が懸念される。
 - ②武道の研修は実施されているが、参加者が少なく、受講生のニーズに対応していない。
 - ③武道領域は柔道・剣道・相撲の中から選択することとなっているが、県内で相撲を授業に取り入れている学校がない
 - （2）期待される効果（仮説）について
 - ①安全かつ効果的な指導の充実
 - ②研修の充実、及び、教員の指導力向上
 - ③武道の授業に不安を抱いている教員へのサポート（授業づくりの支援）
 - ④武道の授業に対する生徒の意欲向上

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

- 1 具体的な取組内容・方法、取組みを進める上での工夫点等
 - （1）研修の充実
 - ① これまで県教育センターで実施していた「柔道」、「剣道」の基礎的、基本的な内容を踏まえ、新たに発展的な内容の研修を実施した。
 - ② これまで実施していなかった「相撲」の研修を、県内で初めて実施した。
 - ③ 指導者のニーズに応じた研修として、女性講師による女性教員のための柔道講座を実施した。
 - （2）外部指導者の派遣と連携した授業づくり
 - ① 必修化後県内で初めて「相撲」に取り組む1校を含め、県内6校（相撲1、剣道2、柔道3）に、外部指導者を派遣し、授業計画の立案から授業中の生徒への実技指導を行うとともに、教員へのアドバイスを行なうなど、効果的な連携体制の構築を目指した。
 - ② 高い競技力を有する選手（トップアスリート）を県内3校に派遣し、生徒に対し技術指導を行うことにより、武道授業に対する関心・意欲を向上させるとともに、指導の様子を見ることから教員の指導力向上につなげた。

○児童生徒の安全を確保するための配慮（工夫）したこと

- 1 各研修の内容に、必ず安全に関する内容を取り扱った。
それぞれの研修講座で、技能の段階的な技術指導について指導していただいた。
- 2 外部指導者を派遣した学校において、外部指導者の助言のもと、安全に配慮した授業になるよう工夫した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 柔道・剣道・相撲の研修から受講した教員の武道について指導力は向上したと思われる。特に相撲については、今後の授業での活用に向け、比較的安全であることや安価である等、認識を新たにされたと思われる。
- 2 女性教員だけの研修を行ったことで、これまで武道研修への参加を見送っていた女性教員も参加し易い状況となった。また、女性のみということで非常に活発に研修を行う姿が見られ、今後の研修の実施方法等の参考になった。
- 3 外部指導者やトップアスリートを派遣することで、生徒の興味関心を向上させるとともに、技術の向上につなげることができた。また、外部指導者の指導場面をみることで、教員の指導力向上につながった。
- 4 外部指導者やトップアスリート、武道研修の講師等の確保が課題。
- 5 相撲を体育の授業として実施する上で、地域の保護者や学校の理解を得られるかが課題。

【県内で初めて「相撲」の研修を実施】

これまでの研修に加え、相撲の研修を実施



【ニーズに応じた研修の実施】

女性教員のための柔道講座を実施



【外部指導者との連携体制の構築】

外部指導者との授業の様子



【トップアスリートの派遣】

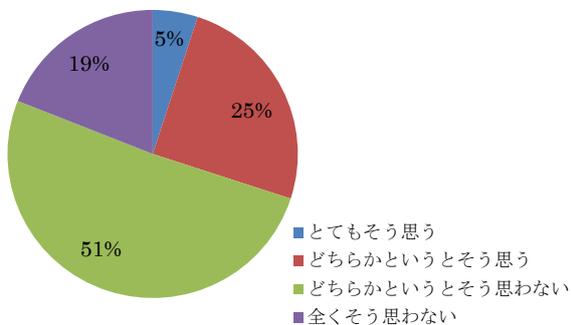
相撲のトップアスリートとの授業の様子



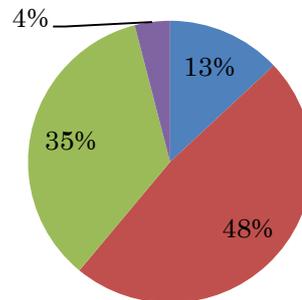
【外部指導者派遣校（相撲）でのアンケート調査】

相撲に取り組んだ派遣校の生徒のアンケート結果

相撲をやってみよう（事前）



また相撲をやってみよう（事後）



【各研修受講生の感想等】

1 相撲の研修の受講生から

- ・柔道の授業の中で少し行ってみよう。 ・相撲の要素を柔道で生かしていこうと思った。 ・体づくり運動としても取り組んでみたい。
- ・今後取り入れていきたい。 ・機会があればチャレンジしてみたい。 ・どこでもできるなど印象が大きく変わった。
- ・すごくよい、安全で安価な武道になると実感できた。 ・相撲に関する知識や指導法を学ぶいい機会だった。
- ・本格的な指導には抵抗があったが、今回の内容は授業の中で十分に活用できるものだった。

2 女性のための柔道講座の受講生から

- ・講師が女性であったため、自分が悩んでいることに気づいてくれていて、よかった。
- ・とてもよい雰囲気を取り組みやすい環境だった。 ・時間があつという間に過ぎるほど、内容が分かりやすく、実践しやすい研修だった。
- ・女性に起こりやすいけがの場面や安全指導の話があって、勉強になった。

【本県での今後の取組みの方向性】

- 各研修を通じて、武道の安全かつ効果的な指導については、周知できたが、今後も継続して研修の充実を目指す。特に、女性教員だけを対象にした研修は、大変好評であり、内容を検討して継続していきたい。
- 学校での「相撲」授業の実施に向け、本県としても新たな一歩を踏み出すことができた。外部指導者派遣を継続して、今後さらに取り組む学校が増えるよう取り組んでいきたい。また、他の武道においても、適切な外部指導者の確保等課題もあげられるが、派遣校においては、大変効果的であるため、継続していきたい。

地域指導者の協力を得ながら実施する
授業における武道（空手道）の指導

学校名 仙台市立愛宕中学校（宮城県）全学年
全校生徒数 147名（男子85名 女子62名）
種目等 武道（空手道）
電話番号 022（225）7458
学校メールアドレス atagojhs@sendai-c.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 地域の専門的な指導者（元世界選手権者・全日本選手権者、現在本校親師会会長）の協力を得ながら、生徒が意欲的に取り組む武道（空手道）指導のあり方を探る。
- (2) 地域指導者と教員の連携により、授業内容の充実を図るとともに、教員の指導力向上を目指す。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

- ① 担当する保健体育科教員が、空手道の指導経験がない場合は、役割分担をしないと地域指導者に任せっきりの授業になってしまうこと。
- ② 現行の学習指導要領における武道は、柔道・剣道・相撲となっており、「内容の取扱い」の項には、「なお、地域や学校の実態に応じて、なぎなたなどのその他の武道についても履修させることができること。」と規定されている。本校では1，2年生で剣道を行っている。地域指導者の仕事の関係もあり、指導時数の確保が課題である。

(2) 期待される成果（仮説）について

- ① 空手道を通して、武道特有の礼法とともに周りの人を尊重することの大切さを学ぶことができる。
- ② 実技指導では、身体接触を行わない「形」だけの指導であるため、けが等が少なく安全に活動することができる。（1年生形：撃砕1-ゲキサイ1， 2， 3年生形：砕破-サイファ）
- ③ 空手道実施3年目であるため、前年度までに学習した内容に加え、新たな技能を習得することができ、空手道の特性を味わうとともに、空手道に対しての興味・関心を高めることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 地域指導者と教員との役割分担

- ① 地域指導者と教員が、事前に目標や指導計画、学習内容についての確認をした。
- ② 教員が本時の流れや準備運動・整理運動を担当し、実技指導に関しては、地域指導者が技能のポイントを示範・説明した。教員は、実技を行う生徒一人一人の支援を行った。

(2) 教員の指導力の向上について

- ① 指導経験のない教員も、地域指導者の実技指導のポイントを学び、生徒と一緒に形を覚えることで指導力の向上につながった。
- ② 後半は、地域指導者による一斉指導だけでなく、グループごとの演武（発表会）に向けて生徒同士が教え合い、学び合うグループ練習を行うことで生徒の意欲と教員の指導力の向上を図った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 武道館よりも広い体育館で実施することで活動場所が十分に確保できた。
- 2 指導内容を身体接触の伴わない「形」だけにすることで、けがの心配がなく思い切った活動ができた。
- 3 基本動作を習得しても、それを使っての「組み手」は体育館以外でも絶対に行わないように厳守させた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 成果
 - (1) 同時期に全学年で取り組んでいるが、学年が進むにつれて礼法や技能面での向上が見られた。
 - (2) グループ活動を通して周囲と協力し、尊重する精神を養うことができた。
 - (3) 生徒一人一人が意欲的に活動し、空手に対する興味・関心が高まった。
- 2 課題
 - (1) 地域指導者の仕事の関係で、指導時間（全学級5時間）確保のための調整が難しかった。
 - (2) 地域指導者がいない中での空手道実施は難しく、来年度以降も協力要請を行っていく必要がある。

研究内容

【授業での指導の様子1】

地域指導者による形の一斉指導



【グループによる練習風景】

生徒同士が教え合い学び合うグループ練習



【授業での指導の様子2】

地域指導者による各グループへの個別指導



【空手道実施内容 全学年5時間】

空手道の他に1,2年で剣道の授業（5時間）を実施している。

- 1 礼法, 基本動作
- 2 基本動作, 1年－撃砕1 2, 3年－砕破
- 3 基本動作, 1年－撃砕1 2, 3年－砕破
- 4 グループ練習1
- 5 グループ練習2, 発表会

【今後の指導の方向性】

教員が実際に空手道の授業をして感じたこと

- 1 空手道の授業は、道着や防具等がなくても実施可能であり、実施しやすい。保護者の経済的な負担を伴わないでできる。
- 2 授業におけるけがが1件も発生しなかったことは、安全面でも非常に良いことだと思った。
- 3 形の発表会を行うことで、仲間同士の協力性が増し、望ましい人間関係の構築にもつながった。
- 4 発表会では、礼法を重んじ大きな声を出して演技する生徒の姿がどの学級でも見られた。「武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にする。」等の武道の指導目標を十分に達成することができた。

学んだ礼法を学校生活に生かし、生徒の意欲関心を高める武道授業の在り方～リズムなぎなたの実践を通して～

学校名 琴平町立琴平中学校（香川県）1・2年
全校児童生徒数 212名（男子113名 女子99名）
種目等 武道（なぎなた）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0877（73）4181
学校メールアドレス school@kotohira-j.ed.jp

1 実践研究のねらい

本町は伝統的になぎなたの盛んな地域で、スポーツ少年団や中・高等学校の部活動などもある。また、地域には資格を有する指導者が多数いる等、生徒がなぎなたに触れる機会が多い。そのような環境を生かし、全国トップクラスの生徒を指導している外部指導者とのT・Tを通して、生徒の意欲関心を高める授業の在り方を探り、学んだ礼法を学校生活に生かせるようにすることをねらった。

具体的な実践としては、1年生では基礎技能を習得し、2年生ではその技能を生かした「リズムなぎなた」創作に取り組んだ。

2 実践研究の概要

（1）課題について

- ・生徒のつまずきに応じた専門的な技術指導が難しい。
- ・技術の指導が形式的なものになり、意味や伝統などを状況に応じて指導することが難しい。

（2）期待される成果（仮説）について

生徒が主体的・協同的に授業に取り組むことができるよう、外部指導者とのT・Tを通じた実践を行うことで、教員の指導力向上につなげることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 担当教員と外部指導者との役割分担

- （1）授業の進行や一斉指導は担当教員が行い、技術に関する内容を指導する際には、外部指導者に模範を示してもらい、担当教員が解説を加えて指導を行った。
- （2）個別の指導では、思考等の内容等は担当教員が行い、技能等の内容は外部指導者が行った。

2 目的意識をもって取り組むことができる単元構成の工夫

- （1）1年生では基礎技能を習得し、2年生ではその技能を生かした「リズムなぎなた」創作を行った。
- （2）リズムなぎなたを全校生の前で発表する場を設定し、発表に向けて意欲的に取組めるようにした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 けがの防止のため、授業日の朝にモップかけを行うことに加え、毎時間、授業前に全員でぞうきがけを行い、ほこりやごみを取り除くようにした。
- 2 毎時間なぎなたの破損等を確認し、ささくれた状態であればテープで補強したり、紙やすりをかけたりするなど、用具の点検を入念に行った。

○成果の意義と今後の課題

1 成果

- 担当教員が明確な授業のねらいをもち、指導が難しい場面で外部指導者を活用するとともに、1年生の段階において、2年生で創作する際に必要な課題技を全ての生徒が習得することができた。
- 外部指導者が礼法の意味や伝統等を説明し、日々の学校生活において担当教員が呼びかけることで、実践したことが日常の生活に生かされている。

2 課題

△防具を使用していないため、打突練習を十分に実施することが難しい。よりイメージをもって相手の動きの変化に対応した攻防ができるよう、防具や打突台等の環境整備が必要である。

○ 研究内容

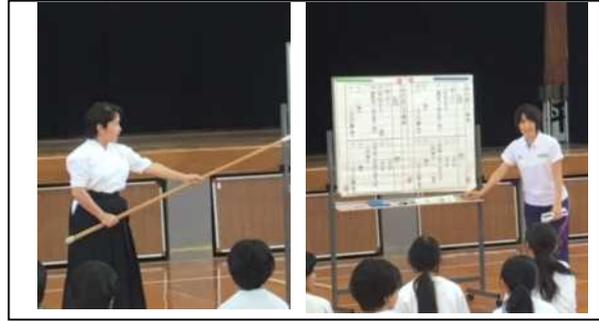
【1年生：礼法の指導】

授業前後の三礼の実施・説明は正座で聞く



【1年生：基本技能の指導】

担当教員が技を説明し、外部指導者が模範を示す



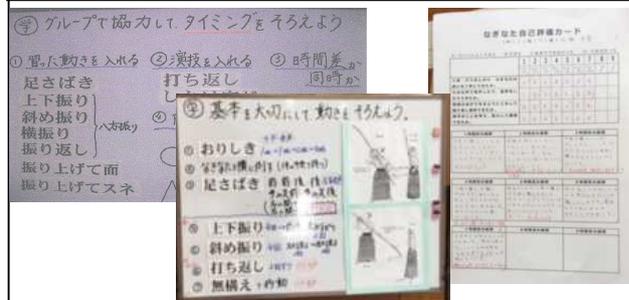
【2年生：リズムなぎなたの指導】

担当教員が演技構成、外部指導者が技術等の指導を行う



【2年生：板書・ワークシート等を活用した働きかけ】

創作のポイントや授業の見通しを板書で示したり、ワークシート等を活用して振り返えったりできるような働きかけ



【授業前後のアンケート】

現在2年生の生徒が、1年生での授業終了後と2年生での授業終了後に同じ内容で行ったアンケート結果の比較。

アンケート内容	学年	はい	いいえ
①なぎなたの授業が楽しみだ	1年終了後(H26)	22人	8人
	2年終了後(H27)	30人	0人
②礼法を理解し身に付けることができた	1年終了後(H26)	24人	6人
	2年終了後(H27)	29人	1人
③基礎技能が向上したと感じる	1年終了後(H26)	21人	9人
	2年終了後(H27)	29人	1人
④仲間と協力して活動できた	1年終了後(H26)	28人	2人
	2年終了後(H27)	30人	0人
⑤友だちとの関係や学級の雰囲気良かった	1年終了後(H26)	24人	6人
	2年終了後(H27)	29人	1人

全ての項目において、1年生での授業終了後よりも、なぎなたの授業に対し肯定的な意見をもつ生徒が多くなった。また、授業を通して互いに協力することができ、学級の雰囲気にも好影響を与えている。

【なぎなた授業を通しての成果】

外部指導者を活用した実践を通じた教員の指導力の向上

外部指導者を迎える授業は、普段と異なり、「凛」とした空気の中で実施することができている。そのことが普段の生活にも生かされ、生徒にとっても学校によってもよい影響を与えている。また、外部指導者からリズムなぎなたの演技会を位置付けることを提案され、担当教員は生徒が意欲関心をもって授業に取り組むことができるよう単元構成の工夫や外部講師の効果的な活用を検討した。そうすることで、生徒が自発的に練習に取り組んだり、互いに教え合ったりするなどの変容が見られた。実践を通して、生徒が授業に主体的・協同的に取り組むための授業づくりの在り方について、研究を深めることができた。

地域の指導者と連携し、生徒の関心と学習意欲を高め、基本技能の習得を図った実践例

学校名 松山市立高浜中学校（愛媛県）1,2年
全校生徒数 121名（男子56名 女子65名）
種目 武道（なぎなた）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 089(951)0475
学校メールアドレス tkh-jof@esnet.ed.jp

- 1 実践研究のねらい
外部指導者との連携により、生徒が意欲的に武道に取り組み、武道の伝統的な行動の仕方や基本動作等を身に付けさせるための効果的な指導の在り方を探る。
- 2 実践研究の概要
 - (1) 課題について
 - ・1年生は武道が初体験であり、技能面だけでなく武道の伝統的な行動の仕方や礼法について、丁寧に指導する必要がある。
 - ・保健体育科教員は、なぎなたの指導経験が浅く、専門の外部指導者と綿密な連携のもと、授業を展開する必要がある。
 - (2) 期待される成果について
 - ・外部指導者の協力を得て、2年間（1、2年生）を見通した指導計画を立てて授業実践することで、技能の習得のための効果的な練習ができると考える。
 - ・外部指導者との打合せや授業実践により、教員の指導力の向上につながる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

- 1 継続的な外部指導者の選定
 - ・平成20年度より、なぎなたを授業に採用し、松山市在住の外部指導者に継続的な指導を依頼しており、学校の体制、生徒の習得状況等を把握されている。そのため、保健体育科教員とは、授業展開や生徒の実態から配慮すべきことについて打合せを行い、共通理解のもと、役割分担をしながら指導にあたった。
- 2 指導内容、指導計画の工夫
 - (1) 2年間（1、2年生）を見通した指導計画の作成
 - ・1年生は、武道の行動の仕方や礼法、基本動作の習得を中心とし、身に付けた基本動作を使ってリズムなぎなたを行う。文化祭で発表を行い、確実な基本動作の習得につなげるとともに、本校の伝統という自覚を持って取り組ませた。2年生は、試合形式により攻防を展開することを中心とした。
 - ・発達段階や習得状況を考慮して、段階的な指導を心掛けた。
 - (2) 授業における外部指導者との役割分担
 - ・技能面の説明や指導は外部指導者が行い、保健体育科教員は、生徒の習得状況の把握に努めた。必要に応じて、外部指導者に振り返りの学習を依頼したり、個別指導を行ったりした。

○児童生徒の安全を確保するための配慮（工夫）したこと

- 1 手・足の爪の確認を徹底する。
- 2 授業前の道場（柔剣道場）・体育館の清掃等の確認をする。
- 3 授業前・授業後のなぎなたの刃部の損傷確認をするとともに、倉庫での保管方法、授業中の置き方を徹底する。
- 4 防具を正しく装着したり、片付けたりさせる。
- 5 活動中、なぎなたの長さ、振った際の範囲を想定した生徒の配置を行う。

○成果の意義と今後の課題

- 1 地域の外部指導者の授業参加により、専門的で細やかな指導を受けることができ、生徒の技能習得に大変効果があった。特に、初めてなぎなたを持つ1年生には、基本動作から丁寧に指導することができた。
- 2 本校の伝統として、学校行事（文化祭）での発表を行うことで、生徒の意欲がより高まった。
- 3 武道の精神や礼節を重視した授業展開となり、1時間もしくは2時間の授業が秩序正しく緊張感のある活動ができた。

○研究内容

【1年生の授業風景】

武道の精神、礼法について丁寧に指導



【2年生の授業風景】

打ち返しによる基本動作の学習



【試合形式の演技】

身に付けた基本動作を活用しての試合



【リズムなぎなた②】

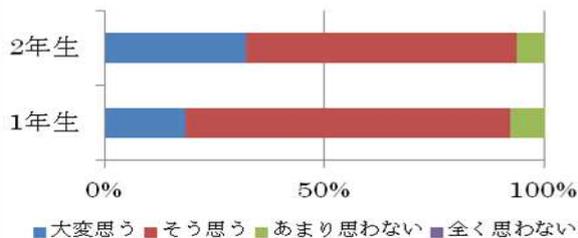
個人の動きから集団の動きにつなげる。



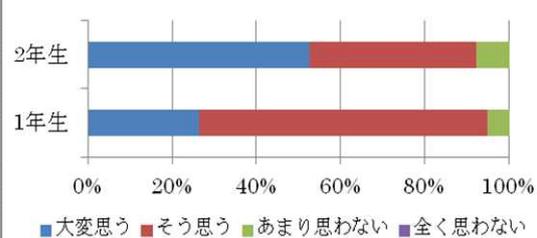
【なぎなたについてのアンケート（授業後）1,2年生対象】

外部指導者の活用により、武道の精神や礼法の重要性、技のポイントや行い方が理解できた。

相手を尊重し、伝統的な行動の仕方をまもることができた。



技を身に付けるための運動の行い方のポイントが分かる。



【実践校としての成果と課題】

成果の分析や生徒の感想から

1年生は基本動作の習得、2年生は攻防中心の指導計画にしたことで、身に付けさせたい内容が明確になった。外部指導者の技能面の指導も生徒にとって具体的で分かりやすかったようである。特に、継続した外部指導者が、毎年、1年時の最初に礼法について丁寧に指導していることで、2年間の武道学習が生徒にとって大変有意義なものとなっていると考える。保健体育科教員にとっても、指導力を高めるいい機会となっている。今後も、なぎなたを本校の伝統として、生徒に自覚させ、継続させていきたい。

【授業後の生徒の感想】

- ・簡易試合（攻防）が多く、技の多さや動きの難しさを体験することができました。
- ・模範演技や模範試合をしていただき技の練習に大変参考になりました。
- ・文化祭での発表により、地域の方々にもなぎなたの良さを伝えることができました。

外部指導者を活用し、教員の指導力と生徒の技術を効果的に高めた弓道の実践

学 校 名 高原町立後川内中学校(宮崎県)第2・3学年
全校生徒数 10名(男子4名 女子6名)
種 目 等 弓 道
電 話 番 号 0984(42)1083
学校メールアドレス ushirokawachi-jc@miyazaki-c.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 弓道の経験のない教員の指導力を外部指導者を活用することによって高める。
- (2) 外部指導者の専門的な指導・支援により、生徒の弓道の技術を高める。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

教員が未経験なので、細かな技術指導ができない。また、限られた時数の中で、的を射る楽しさを味わわせなければならない。

(2) 期待される成果(仮説)について

外部指導者の専門的な知識や技術が教員の指導力を高め、さらに、外部指導者と教員が連携した指導・支援を行えば、生徒が弓道の特性に触れ、弓道の楽しさを味わうことができるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法・取組を進める上での工夫点等

(1) 効果的な弓道学習の場の設定

弓道場がないので、天候に左右されずに実施できる体育館を弓道場に見立てて場を設定した。的は畳に掛け、本座・射位の場も木札で示した。また、道具一式を整頓し、片付けや準備が素早くできるようにした。さらに、DVDによる学習ができるように、常時DVDを設置した。

(2) 外部指導者によるきめ細かな個別指導

生徒10名を3グループに分け、一人一人の射法八節について細かにチェックできるようにした。教員は外部指導者の個別指導にできるだけ立ち会い、細かな技術について理解を深められるようにした。

(3) 学習の見通しと毎時間のまとめの充実

年間の体育学習のファイルとは別に弓道学習のためのファイルを作成した。外部指導者と数回打ち合わせ、学習内容及び学習の流れを確認し、弓道学習の1時間目に全10時間分の学習内容を示し、生徒に見通しをもたせた。また、第1学年から学習資料と学習カードを綴じているので、前学年の内容を振り返ることができるようになっている。

○児童生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

- 1 しっかりとした準備運動や補強運動を行い、本学習に入るようにした。
- 2 矢を人に向けない、的場には合図があってから入ることなど安全に関する指導を徹底した。
- 3 行射をグループごとに行い、安全を確認した上で次のグループの行射に移るようにした。

○成果の意識と今後の課題

- 1 外部指導者の礼法や射法八節の細かな指導により、生徒は弓道の特性に触れ、的を射る弓道の楽しさを味わうことができた。
- 2 単元計画の打合せや生徒への細やかな個別指導に立ち会うことで、教師も弓道の指導力を高めることができた。
- 3 2年生・3年生合同でも十分な実技の時間を確保することができたが、学習内容をさらに整理して、学年差や個人差に対応できるようにしていかなければならない。

【様式1】2ページ目

○ 研究内容

【弓道学習場の場の設定】
弓道具の整頓・DVD機器の設置等



【学習カードの工夫】
弓道全時間を見通せる学習カード



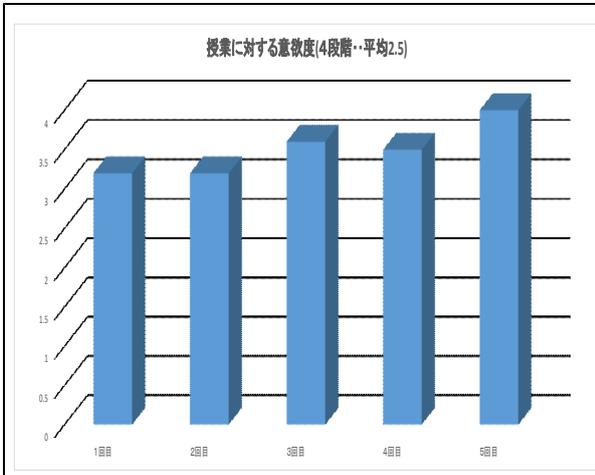
【弓道学習場の場の設定】
射場・的場の設置



【個別指導】
外部指導者による個別指導の場に教員も学ぶ



【弓道の楽しさ】
生徒の授業に対する意欲度と弓道学習を終えての感想



左の図は、毎時間の生徒の意欲度を示したものである。毎時間とも意欲は高い傾向にあるが、時間が進むにつれて的に当たる回数も増え、高くなっている。最後の納射会では、弓道本来の28mからの行射でさらに意欲が高まったようである。以下は生徒の感想である。

- 最後の弓道はすごく楽しかった。28mから矢を射って、最後の最後で的に当てることができ、とてもうれしかった。3年間で成長できたと思う。朝比奈先生に感謝。
- 今日は、何度も的に当てることができた。朝比奈先生から教えてもらった弓から見える的の位置を意識したら、上手くいった。次は最後なので、28mからの的を射たい。

【納射会】
まとめの納射会 28mからの行射



合気道授業における、外部指導者活用の事例

学校名 田辺市立明洋中学校（和歌山県）
全校児童生徒数 341名（男子175名 女子166名）
種目等 武道（合気道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0739（22）5410
学校メールアドレス meiyojhs@citrus.ocn.ne.jp

1 実践研究のねらい

- （1）合気道の有段者から直接指導を受けることにより、合気道での身のこなし方や技を習得する。
- （2）合気道の有段者から技や身のこなし方を習得するだけでなく、合気道の精神である和合の心に触れ、日本の伝統と文化について理解を深める。

2 実践研究の概要

- （1）課題：合気道指導者の確保と、打合せ時間の確保が課題である。
- （2）期待される成果（仮説）：武道特有の身の動き及び精神を身に付けることができる。
- （3）合気道授業を行う前に、合気道の創始者である植芝盛平翁（田辺市出身）の生き方についての講演を聴き、合気道の精神（和合の心）について学習する。合気道の精神（和合の心）について学習した上で、合気道の技について学習する。再度、合気道の講演を聴き、武道の精神及び日本の伝統と文化について理解を深める。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）取組内容・方法

9月に、合気道に関する講演会を開催し、合気道の精神（和合の心）及び合気道の創始者である植芝盛平翁の生き方について学習する。その後、本校の教員2名と合気道の有段者3名、計5名体制で授業を行う。各学年の発達段階に沿って、合気道の技や身のこなしについて合計6時間授業を行う。3年間で、受け身を含め片手小手返し等の技を、10程度習得する。

（2）取組を進める上での工夫点

武道授業では武道の技を身につけるだけでなく、武道の精神・武道の考え方の学習を通して日本の伝統文化について学習する機会と捉えている。そのため、合気道の創始者である植芝盛平翁の生き方や合気道の精神（和合の心）についての学習を重視している。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

合気道の本格的な授業に入る前に、事前学習として受け身や礼儀作法の学習を行っている。このことにより、合気道の授業がスムーズに行え、怪我や事故の防止につながっている。

○成果の意義と今後の課題

合気道の授業は運動が苦手な生徒でも楽しんで行うことができる点が大変良い点である。球技等では運動能力により、「できる、できない」の差が出る種目が多いが、合気道は運動能力に関係なく、技を習得することができ、達成感が得られる。そのため、合気道の授業を楽しんでいる。課題としては、指導者の確保である。合気道有段者の方々は、それぞれ自分の仕事があるため、授業時間に講師として指導していただける人が限られる。そのため、指導者の確保が大きな課題である。

○ 研究内容

【合気道の技の習得】

3年間で10程度の技を習得



【技の発表】

習得した技をみんなの前で発表



【植芝盛平翁講演会】

植芝盛平翁（合気道の創始者）について学習



【礼儀作法の学習】

事前学習として礼儀作法の学習



【合気道授業への関心】

体育の授業でアンケート調査を実施

体育の授業は楽しいですか。 楽しい 1年生 72% 2年生 69% 3年生 70%

合気道の授業は楽しいですか。 楽しい 1年生 88% 2年生 91% 3年生 90%

合気道の授業後の感想より

男子：僕は、合気道でいろいろな技を教してもらい、出来るようになりました。間違えているところは、優しく教えてくれて、本当に嬉しかったです。時間があっという間に過ぎていくほど嬉しかったです。

女子：今回、合気道を教えて下さった先生は、出来ない技の時にちゃんと分かりやすく教えてくれたので、わかりやすく出来るようになりました。技が出来るようになって楽しいと思いました。

【合気道（和合の心）の浸透】

合気道の精神（和合の心）にふれることにより安定した学校を目指す

合気道の授業が開始され、本年で5年が経過します。合気道の有段者のご協力を得て、授業のカリキュラム等が確立され、充実した授業が行われています。今後は、合気道の技だけでなく、合気道の精神（和合の心）の学習を更に充実させ、安定、充実した学校生活を送れるよう取り組んで行きたい。

地域の指導者による研修会で、教員の指導力を高めた実践例
～ダンス講習会の開催による指導力の向上～

京都府教育委員会

参加者 創作ダンス 8名(6/10)
現代的なリズムのダンス 31名(10/8)

種目等 ダンス
(本事例に係る問合せ先)

電話番号 075-414-5867

h-ohtsuki94@pref.kyoto.lg.jp

- 1 実践研究のねらい
 - ・目的
中学校ダンス必修化を踏まえ、専門的指導者の協力のもと本府中学校保健体育科教員のダンス授業の指導力向上を図る。
- 2 実践研究の概要
 - (1) 課題について
 - ・生徒の習熟度に応じた指導の工夫
 - ・評価活動について理解不足
 - (2) 期待される成果(仮説)について
 - ・授業研究会で、授業実践に即した研修内容により指導力の向上
 - ・講師による講義内容及び資料の充実と研究協議での講師による助言による参加者の資質向上

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

- 1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
 - (1) 取組内容
 - ・創作ダンス(6月 南部会場)、現代的なリズムのダンス(10月 北部会場)を開催
 - ・実技指導とともに講義及び研究協議
 - (2) 取組を進める上での工夫・改善
 - ①授業に即した内容となるよう、事前に参加者にアンケート調査
 - ②研究協議で評価活動について情報交換と共に講師による助言

○児童生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

ケガ予防とともにダンス動作の習得を目指したストレッチング

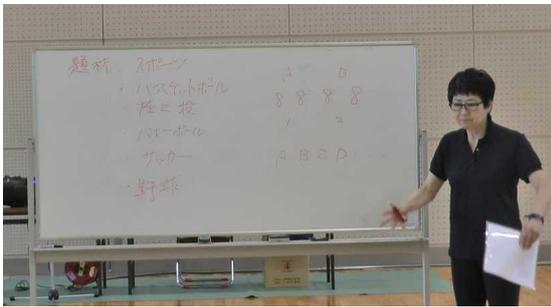
○成果の意義と今後の課題

- 成果
- ・受講者一人一人の個性を引き出し、動きの中で表現させる指導を体験できた。
 - ・研究協議により、共通した課題について情報交換ができた。
- 課題
- ・創作ダンスの参加者が非常に少なかった。
 - ・授業で実施する指導内容に即したものにす。
 - ・講習会参加後に、各自で研修できるよう支援する。

○ 研究内容

【創作ダンスの講義】

理論的なダンス指導にむけた講義



【創作ダンス発表会の様子】

ステージを設定した発表会の運営



【ダンスの補強運動】

ダンスの動きに即した補強運動の体験



【立体的な構成に向けた指導】

体育祭を意識した構成と指導方法



【取組のアンケート結果】

研究授業と共に充実した研究協議により実りあるものとなった。

受講教員の満足度は 93%

(感想)

大人が考えている以上に、子供たちは一つ一つの動作や工夫を難しく考えていることを改めて学びました。もっともっと噛み砕いて細かいところから教え指導していくことが、さらにダンスに興味を持ち、楽しく取り組むことができるのだと思いました。身近な活動や仕草等も取り入れた授業づくりを目指したいと思います。先生ありがとうございました。

ウォーミングアップのストレッチから丁寧に指導していただき、自然と体を動かすことができました。また、段階をふんだ指導をしていただき、リズム感のない私でもダンスを楽しむことができました。現場で子供たちに指導する際に、自然と笑顔になるようなダンスの授業をしていきたいと思いました。今日学んだことをしっかりと活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

【今後の方向性】

参加者の増加と評価活動の研究

- ・ 評価方法の具体的例示と評価場面の設定による評価活動の充実
- ・ ICT の効果的活用

**教員の授業力を高める実践例
～ダンス研修と異校種によるダンス
授業研究会を通しての検証～**

教育委員会名：島根県教育委員会

種目：ダンス

電話番号：(0852) 22-5426

メールアドレス：hotai@pref.shimane.lg.jp

- 1 実践研究のねらい
 - (1) 島根県学校ダンス指導者研修会や島根県教育委員会が実施した中学校ダンス研修会が教員の授業力にどのように影響を及ぼし授業に反映されているか検証する。
 - (2) 小学校、中学校、高等学校の異校種の教員による授業研究会を通して、児童・生徒の発達や実態に応じた系統的な指導方法を探る。
- 2 実践研究の概要
 - (1) 中学校保健体育教員の約60%が大学でダンスの履修を受けないまま教員になっている。また、小学校教員の73.9%、中学校教員の85.1%が表現・ダンスの指導がしにくいと回答している。
 - (2) 教員の要望や困り感に沿った授業形式の研修を実施することによって、教員の表現・ダンスの抵抗感を減少させ、指導力を高める。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

- 1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
 - (1) ダンス研修の受講者に事前アンケートを実施して、困り感、研修で実施してほしい内容、ダンスに対する意識調査を行い、受講者の要望に沿った研修を実施。
 - (2) ダンス研修後に研修内容を基に授業を実施したかどうか、研修の成果と課題の追跡調査。
 - (3) 研修を受けた小学校教員、中学校教員、高等学校教員による授業研究会を開催
 - ① 小学校、中学校、高等学校、大学教員による異校種の授業研究会
 - ② 島根県教育委員会による継続型の指導（授業前の指導案検討、授業研究会、事後指導）を実施し、授業者の指導力の向上を図ると共に各校種別のリーダー育成を目指す。
 - ③ 異校種の授業研究会を通して、児童・生徒の発達段階に応じた系統的な指導方法や課題を探る

○教員の指導力を高めるために配慮（工夫）したこと

- 1 研修では、事前アンケート調査から受講者が持っているレベルや要望を把握し、「リズムの特徴の捉え方」、「単元計画の立て方」、「指導する上での重要なポイントや約束事」など実際の学習過程に沿った研修を実施した。
- 2 実技では、受講者を生徒役に見たて、講師が教師役となり①受講者自身がダンスを楽しむ②対話を通して生徒の考えを引き出すことを心がけた。生徒の実態に応じた授業づくりの方法を指導することで、生徒理解、言葉がけの大切さを理解してもらう。

○研修と授業研究会の成果

- 1 島根県学校ダンス指導者研修会に参加した教員の98%が授業づくりに研修が「大いに役立った」、「役立った」と回答しており、そのうち69%の教員が研修を基に授業を実施した。
- 2 異校種による授業研究会で、「授業の導入の仕方」、「児童・生徒への働きかけ（声掛け）」、「子どもの意識に沿った単元計画」、「生徒のよい動きを見抜く力（評価）」が各年代の課題であることがわかった。

○ 研究内容

【ヒップホップを踊ろう：教員研修】

体幹を意識したアップ・ダウンのリズム



【創作ダンスをつくろう：教員研修】

つなげて、発展させて 空間を工夫した動きづくり



【異校種による授業研究会：中学校】

グループワークによる成果と課題の分析



【授業研究会：小学校】

ダンスカルタを使って即興的に表現しよう



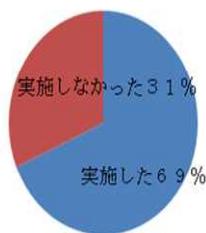
【ダンス研修の満足度と活用状況】

研修後のアンケートによる追跡調査結果



授業づくりに研修は役立ったか

大変役に立った 48%
役に立った 50%
変わらなかった 2%



研修を基に授業を実施したか

実施した 69%
実施しなかった 31%

【今後の課題】

ダンス研修と授業研究会を通して見えてきたもの

○異校種の授業研究会や研修会を通して①授業の導入の大切さ ②音源の選曲 ③児童・生徒のよい動きを引き出す声掛け ④良い動きを見抜く指導者の目（評価）⑤つながりのある授業構想力 に課題があることがわかったので来年度の授業研究会の視点にするともに研修会で取り入れていきたい。

○教員の授業力を高めるために、県外での先進校の視察、県内各地域での授業研究会やダンス発表会の支援が必要である。

ダンス授業における外部指導者の活用により、教員の指導力を高めた実践例

学校名 石井町立高浦中学校（徳島県）3年

全校児童生徒数 177名（男子90名 女子87名）

種目等 ダンス（創作ダンス）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 088-674-1219

学校メールアドレス takaura@mail.netwave.or.jp

1 実践研究のねらい

- （1）心身を解放し、表現豊かにダンスの授業に取り組む
- （2）教員のダンス授業における指導力向上

2 実践研究の概要

- （1）課題について 生徒の表現力や心身の解放を目的とする
教員の指導力向上にも努める
- （2）期待される成果（仮説）について 生徒の意欲・技能・表現力の向上
教員の指導力の向上

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- （1）ウォーミングアップダンスでは生徒がより多くのペアと楽しくダンスできるようにペアの交代を増やした。創作の段階では、個人のアイデアや意見を大切にし、それをきちんと伝え、グループのメンバーに頼らないように個人で動く練習も取り入れた。具体的には、出されたアイデアは否定せずに一回は動いてみる、必ず自分の案を最低一つは出すなどである。
個人で動く場面では、人と一緒に行動をしない、周りと違うポーズをとる。
学習カードの活用により、全員の意見や感想を聞き、生徒のダンスの理解度、意欲・関心などを把握し、次時の授業の参考にしたり改善に努めた。また、授業のはじめには必ず前時の感想の紹介をし、表現力の向上や心身の解放の意欲を高めた。毎時ビデオ撮影も行った。
- （2）外部指導者と連携を図りながら授業力の向上に努めた。
授業の前には事前打ち合わせを必ず行い、授業後にも必ず評価と反省を行った。
外部指導者が別のクラスで模範授業をし、それを参考に授業を展開することができたので授業の流れや指導などがよく分かった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 ウォーミングアップダンスではしっかりと体を動かし、ダンスの意欲や気持ちもつくり、体をほぐしてよい雰囲気です授業に入っているように配慮した。
- 2 ダンスの創作中にぶつからないように、創作場所を固定して十分な広さで安全に考慮して創作し

○成果の意義と今後の課題

- 1 成果の意義 普段運動に積極的に取り組むことが苦手な生徒も回数を重ねるごとに自分を出し、積極的に取り組めるようになった。
- 2 今後の課題 テーマにふさわしいアイデアや動きをより高いレベルで出すことが課題である。

○研究内容

【外部指導者の実践模様】

説明文：指導を参考にして実践に取り入れている。



【太鼓で生徒を動かしている様子】

説明文：T2が実際に動きのイメージを提示



【ホワイトボードの利用】

説明文：ブレインストーミングやタイトルを書くのに使用



【学習カードの活用】

説明文：コメントを書き込み生徒の意欲を喚起した



【学習カード活用について】

学習カードを使用することで数値化や記録を残すことができた

授業の最後には毎時必ず学習カードを書かせている。内容としては本時の学習（ねらい）、DKW（ダンスキーワード）感想、自己評価（4観点をABC評価で付ける※写真参照）、友達のよいところである。授業開始当初では、自己評価にAが3つ以上つく生徒の割合は35%であり、Cが一つ以上の生徒の割合は10%であった。しかし授業が終わる頃では、Aが3つ以上つく生徒の割合は75%まであがり、Cが一つ以上の生徒の割合は3%であった。毎時取り組むことにより、自己の成長が確認でき、他者のよいところを認め、互いに成長できたことが要因である。また別の要因としては、教員の指導力の向上や生徒自身の理解度の向上、授業の流れの把握も背景にある。

【今後のダンス授業】

今後のダンスにおける授業展開や意図について

本校では、運動会の関係もあり、ダンスの授業ではフォークダンスのみを取り扱っている。しかしこの機会に創作ダンスを年間指導計画に取り入れることを検討している。生徒自身がのびのびと楽しく活動でき、身体的能力差があまり現れないところがダンス授業の良さの一つである。自己を表現し、他人の良さを認めることを意図として、今後の授業力向上に努めたい。

外部指導者や ICT の活用により、生徒の興味、関心を高め、意欲的に活動した授業実践例

学校名 松山市立東中学校（愛媛県）1, 2 年
全校生徒数 242 名（男子 132 名 女子 110 名）
種目等 ダンス（現代的なリズムのダンス）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 089(924)8588
学校メールアドレス mate-jof@esnet.ne.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者との連携により、生徒のダンスへの意欲を高める指導ができる。
- (2) ICT の活用によって、生徒が自主的に学習の振り返りをしたり、人に見せることの楽しさを知ったりすることによって、技能を伸ばすことができる。

2 実践研究の概要

- (1) 課題について
 - ・ダンスの特性や魅力、楽しさを理解させ、生徒のダンスに対する興味、関心を高める指導を行う。
 - ・生徒のダンスの技能を高めるため、効果的な ICT の活用やグループ活動を行う。
- (2) 期待される成果について
 - ・生徒の自主的な活動が展開されるとともに、教員の指導力の向上につながることを考える。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 外部指導者の支援の工夫

- ①ダンスが苦手である生徒は、自分の動きを人に見られることや笑われることを心配しているため、授業の最初に明確な本時の学習課題や約束事を提示し、不安を除く。
- ②75～85 人の男女共習であるため、大学生 2～4 人はフロアで常時声掛けをしながら生徒の支援をしてもらう。生徒のグループの中に積極的に入り、一緒に踊るなどの支援を行う。
- ③学生と教員が毎時間前後に指導内容及び生徒の習得状況等について打合せをし、生徒の把握に努める。

(2) ICT の活用

- ①授業の中で、体育館に常設している電子黒板（モニター）を常に見られる状態にし、自分の踊っている姿を周囲から見られることに対する不安感をなくす。
- ②操作の仕方を必要な時に合わせて学習し、誰もが使用できるように指導する。
- ③動きの大きさ等を客観的に見て、よりよくなるための話し合いや磨き合いをする場面を作る。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 個人・グループの練習の場の確保（大人数のため）
- 2 授業の最初の柔軟体操やストレッチの時間の十分な確保
- 3 指示の出し方・提示の仕方

○成果の意義と今後の課題

- 1 ダンスの経験が少ない生徒が多く、恥ずかしい気持ちをもつ生徒が多かったが、「思いやりをもつ」「拍手をする」「良いところ探しをする」ことを約束事として提示することで、お互いを認めようとする姿勢が育った。
- 2 映像を見ながら、お互いが意見を出し合ったり見せ合ったりすることによって、磨き上げる意識が高まった。
- 3 教師の指導力の研鑽と同じ集団の質を高めるための来年度の取組が課題である。

○研究内容

【振り渡し】

外部指導者から動きを教わる。



【ICTの活用】

モニターで確認しながら、さらに考え創作する。



【生徒支援】

指導者側の役割分担を明確にし、支援をする。



【ICTの活用】

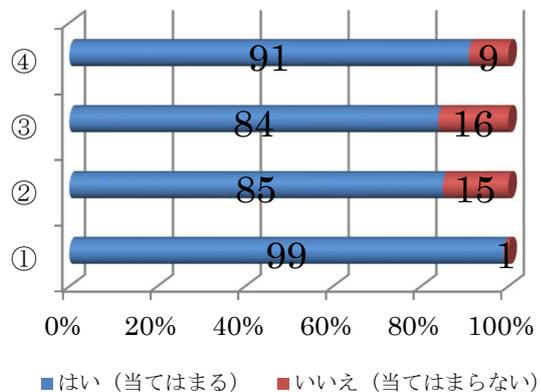
使い方を理解し、録画したり確かめ合ったりする。



【ダンスについてのアンケート調査】

(1年生男女 91名、2年生男女 86名)

- ①ダンスの学習に意欲的に取り組んだ。
- ②見せ合ったり発表したりする場面で、仲間の良い動きや表現などを指摘することができた。
- ③オリジナルダンスの創作では、積極的に動きのアイデアを出そうとした。
- ④積極的にビデオやモニターを操作し、利用した。



【実践校としての成果と課題】

アンケートから見える成果と今後の取組について

- ・外部指導者と教員が情報交換を密にしたことによって、個に応じた細かな指導ができた。それにより、大変意欲的にダンスの授業に取り組む集団になった。
- ・他の良さを発見し伝えることはできるが、技能の向上を目指して、互いが高め合う活動はまだ途上である。
- ・創作活動においては、他の班員に任せてしまう傾向が見えた。どんな動きもダンスであるということをもっと伝え、自信をもたせるための声掛けや場面作りが大切であると思われる。
- ・ICTの活用については、興味・関心が高く、それぞれが役割を分担しながら活用する姿が見えた。一部の種目に限らず、授業の中に自分を振り返ったり、技能の上達を課題としたりしてICTの活用をしていきたい。

地域人材を活用した
学校体育指導の効果的な実践例

学校名 大牟田市立甘木中学校（福岡県）全学年

全校児童生徒数 358名（男子207名 女子151名）

種目等 ダンス

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0944（58）0033

学校メールアドレス amagi-js@st.city.omuta.fukuoka.jp

1 実践研究のねらい

- （1）自ら学びを求めて行動する生徒の育成をめざす。
- （2）ダンス専門指導者の力を活用し、楽しく活動的に取り組む授業づくりを行う。

2 実践研究の概要

（1）課題について

男女ともに表現活動や自ら学びを求めて活動する生徒が少ないため、指示されたことはできるが、自主的に楽しむ雰囲気を作ったり、進んで活動を考えたりすることが不得意である。

（2）期待される成果について

ダンス専門指導者による、言葉のかけ方、簡単で興味が持てる段階的な動きづくりの指導方法、生徒達が動きやすいBGMの選曲方法や練習の雰囲気作り等、専門分野の指導を採り入れることにより、生徒達の主体的な活動を展開することができると考えた。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- （1）学習活動の計画段階において、外部指導者と担当教諭で、単元の指導目標を設定し、展開の計画をつくる時間を4時間程確保し、電話やメール等で十分な打合せを行った。
- （2）学年別に利用する音楽と基本ステップを替えて実施することで、保健体育科教諭の興味・関心も高まり、指導力の向上にも結びついた。動きがうまくできない生徒中心の支援を行うことにより、全体の進行を妨げず複数の生徒に対して個別指導ができた。
 - ① iPadを活用し、自分の動きを瞬時に再生し課題を自ら見つけて練習することができた。
 - ② 毎時間ビデオ撮影をすることにより、振り返りがいつでもできるようにした。
 - ③ 学習活動のまとめでは、班ミーティングで「今日の良かったところ、できるようになったところ」を確認して共有する時間を確保した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 出席確認の際は、返事後に自己の健康状態を一言発言して座る。
- 2 安全確保のため、男女共習で、体育館アリーナ全面を使用し活動のスペースを確保した。
- 3 滑る動き等もできるようにするために、冬服着用で実施した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 ダンスへの興味関心を持たせるために、生徒達の関心のある曲や流行の曲等で、体を動かしたいと思わせるような選曲がよかった。自由に表現をしてよいところを準備してあり、恥ずかしさを克服し、個性あふれる表現ができていた。
- 2 時間をかければより良い表現ができるが、他の単元との時間的な調整が課題である。

○ 研究内容

【ダンス指導者からの全体説明】

表現自由でいい、音程に乗ってリズムをとってみよう。



【基本のステップ練習】

女子前方、男子が後方で踊るから駆けかさが減る。



【iPadで動きの確認】

自分の動きを見て、課題を見つけ解決を目指す。



【鏡のかわりに】

ビデオとプロジェクターを利用して見ながら踊る。



【取組の客観的成果】

生徒へのアンケート調査の結果分析

本校生徒は、全体の83%の生徒が「体を動かすことが好き」と答えている。また、「体を動かすことが得意だ」と答えた生徒は70%を超える。勉強より運動が好きな傾向にあると言える。「運動が嫌い」「体を動かすことが嫌い」と答えた生徒は、全体の17%であった。今回のダンスの授業では、運動が嫌いな生徒をターゲットにして追跡調査を行った。

「体育の授業が嫌い」と答える生徒が14%いる。その生徒達の中で、今回のダンスの授業で「自主的に踊ることができた」と答えた生徒は82%と高い数値を示した。また、そのうちの57%は「もっとダンスを学びたい」と答えている。運動が苦手な生徒も、ダンスの授業では軽快なリズムに合わせて動き続ける有酸素運動を自然と繰り返し行っていることに気づく。しかし、生徒達からは「苦しい」とか「きつい」と言う言葉は出てこない。「楽しい」「気持ちいい」といった前向きな言葉が多い。今回、外部指導者の高い指導力と工夫された選曲方法や表現の作り方がいかに有効であるかが理解できる取組であった。

【本事業の実践のまとめ】

本事業を終えた今後の学校の取組について

専門的な知識と技能を持ち合わせた指導者に、短期間ではあるが集中的に工夫された指導方法を学べたことが、非常に良い経験になったと考える。また、保健体育科の教員も、これまでの指導方法を顧みて反省をするとともに、今後のダンス指導の方法について創意工夫を重ねるためにもよい機会となった。地域人材の活用を今後も進めていきたい。

かかわり合いを大切にする授業（態度を育てる）実践例

学 校 名 串間市立大東中学校（宮崎県）第1・2学年
全校生徒数 80名（男子37名 女子43名）
種 目 等 ダンス（創作ダンス）
電話番号 0987（74）1034
学校メールアドレス otsukayu@city.kushima.miyazaki.j

p

1 実践研究のねらい

- (1) 他者とのかかわり合いを通して、コミュニケーション能力を育てる。
- (2) 専門家が考えた教材を活用し、教員の指導力を高める。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

本校の生徒は、自分の考えを伝えたり、友だちにアドバイスしたりすることを苦手とする生徒も少なくない。そこで、これまでの授業において、ペア練習やグループ練習を多く取り入れ、話し合い活動の時間を確保してきた。その結果、生徒たちが互いにアドバイスをする姿や作戦を考える姿が見られるようになった。

本年度は、「自他のよさを発見する、支える、伸ばす」ことを考え、互いに認め合ったり、仲間との学習を援助したり、仲間と教え合ったりする「かかわり合い」を大切にする授業展開を考えていきたい。

(2) 期待される成果（仮説）について

ダンスの授業において、認め合う・援助し合う・教え合う学習を積極的に取り入れることにより、生徒同士のコミュニケーションを深めることができるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

(1) 「他者とかかわること」を意識した授業展開

- ① 専門家が研究している教材は、全てを生徒に考えさせるのではなく、ある一部分だけを考えさせ、作品にしていくなど他者とかかわる場面を多く設定しているのが特徴である。自分が考える授業を展開していくためには、外部指導者がどのような教材を開発しているかを知ることが必要である。事前の打ち合わせにおいて、どのような教材が本校の生徒に適しているかを具体的に話し合うことができた。県などが主催する研修会などに積極的に参加していくことが大切であると感じた。
- ② 振り付けを考えるポイントとして、「相手の意見を否定せず、まずやってみる」そして、「その意見をふくらませていく」ことを伝え、他者とのかかわり方を指導することが大切である。生徒は「相手の考えを否定しない」という約束事を決めたことにより、生徒の活動に幅ができ、認め合う姿が見られるようになった。
- ③ 授業形態は、「ペア」「3～4人グループ」「10人前後のグループ」「全体」で行うことにより、生徒一人一人が学習活動に参加しやすくなり、互いの考えを深めることができ、認め合う・援助し合う・教え合う姿が見られるようになった。

(2) 武道指導者等派遣事業の活用

専門家を派遣してもらうことで、生徒に「生きた教材」を提供することができる。また、教員の指導力向上のためにも貴重な事業であるため、県の武道指導者等派遣事業を活用した。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 外部指導者と生徒の様子や健康状態について共通理解を図った。
- 2 創作したダンスを撮影する際は、周りの状況を確認させ、撮影を行った。

○成果の意義と今後の課題

- 1 他者とのかかわりを重視した授業を展開していくことで、相手の気持ちを考えたかかわり方（認め合う・援助し合う・助け合う）に気付き、みんなで一つの作品を作り上げる喜びや他とかかわることの喜びを感じたのではないだろうか。ダンスを研究している専門家の教材は、多くの学校で実践され、検証をしてくれている。今回の派遣授業においても、生徒が自分の意見をしっかり伝えている姿や笑顔で作品作りをしている姿から効果があると実感している。そして、外部指導者との出会いによって、生徒たちは「経験したこと（学んだこと）を次（学習）に活かす」というもう一つの課題について、考える場面に遭遇した。今回のダンス教材は、積み重ねていながらダンスを創作していくものであり、生徒は、経験したことを活かすことの大切さを改めて実感したようであった。
- 2 専門家が考えた教材を活用したことで、今後の授業に大きな幅ができたと感じる。ダンスを教えていくポイントも分かり、指導力向上につながった。

○研究内容

【ペア学習（認め合う）】

ペアの新聞紙の動きに合わせ、新聞紙の真似をする。



【話し合いの場を確保（援助し合う）】

ポーズの特徴や振り付けの順番を話し合う。



【個の動きをつなぐ（助け合う）】

ポーズをつなぎ合わせ、一つの作品にする。



【創作ダンス撮影（認め合う）】

グループで考えた振り付けをつなぎ合わせ、撮影する。



【生徒の日記を分析】

アンケートを取らず学級での日記（生活の記録）の感想を分析した。

日記に感想を記入していた生徒は、1回目が1年生11名、2年生17名、2回目が1年生11名、2年生18名、3回目が1年生7名、2年生15名、4回目1年生11名、2年生12名であった。（1年生23名、2年生24名が授業に参加）

生徒の日記より抜粋

- 一つ一つの動きに迫力があって凄かった。
- 新聞紙の使い方によっていろいろなダンスができるのを初めて知りました。
- 友だちが考えた動きなどをするのが難しかったですが楽しくできた。
- いろいろな動きを考えたりしながら活動したので、頭もけっこう使いました。
- 少し間違えたけど楽しかったです。
- ダンスのおもしろさをわかることができた。
- 映像を撮影しました。みんな笑顔でとても楽しかったです。また、ダンスがしたいです。
- 自分の分身（新聞）を作って、相手がそれを操って私が動きを真似をするところが楽しかった。
- 動きが少し小さいと思ったので、次踊るときは動きを大きくしたいです。
- んまつーポスの人にほめられました。うれしかったです。
- んまつーポスの方々は、アイデアが豊富で驚きました。
- ピカソの絵を体で表現しました。楽しかったです。
- 自分たちで考えてダンスをしました。楽しかったです。

多くの生徒が、日記にダンスの授業について書いていたことがうれしかった。日記の内容を見てみると、「楽しかった」という感想が多く、外部指導者が準備した教材の楽しさに引き込まれ、仲間とダンスを作り上げることに喜びを感じていたことが読み取れる。今回の派遣授業が大きな成果を上げたことがわかる。

【教員の更なる指導力向上を目指して】

専門家が研究した教材を積極的に活用する。

今回の事業を通して、コミュニケーション能力の育成に創作ダンスが有効であることがわかった。専門家の研究した教材を積極的に活用し、「自他のよさを発見する、支える、伸ばす」ことを考え、互いに認め合ったり、仲間との学習を援助したり、仲間と教え合ったりする「かわり合い」を大切にする授業を継続していきたい。また、様々な研修会に積極的に参加していきたい。

体育専科教員、地域の指導者を活用することで、児童の体力と教員の指導力を高めた実践例

学校名 藤岡市立神流小学校（群馬県）全学年

全校児童生徒数 461名（男子239名 女子222名）

種目等 全領域

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0274（22）2444

学校メールアドレス kannaes@school.gsn.ed.jp

1 実践研究のねらい

- （1）全学級の体育授業において、体育専科教員（T2）と学級担任（T1）によるTTで授業を実施することで、児童の体力向上と教員の指導力向上を図る。
- （2）地域の指導者を活用した取組を実施することで、児童の関心・意欲の向上を図るとともに、教員の指導方法の改善を図る。

2 実践研究の概要

- （1）体育専科教員が全学年の体育の指導内容を検討し、学級担任とのTTによる指導を行うことで、児童の運動量を確保し体力向上を図るとともに教員の指導力向上を図る。
- （2）大学と連携し、駅伝部員が示範やポイントの提示などの指導を行うことで、児童の関心・意欲を高めるだけでなく、持久走の指導に関する教員の指導力の向上を図る。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- （1）体育専科教員が全学年の年間指導計画・指導内容を検討し、各学級担任とTTの指導を行った。また、全校統一の学習規律を確立し、運動時間を確保するなど、全ての学級において同一歩調で体育の授業が行えるようにした。
- （2）地域の指導者との連携による学習指導の実践
 - ① 地域の指導者（大学の駅伝部員）による持久力を高める運動を行う際、児童が一定のペースで走ることができるようにフォームや呼吸などのポイントを示してもらいなど、走る際のコツをつかめるようにした。
 - ② 教員が指導する際のポイントを提示してもらいことで、指導力向上に生かせるようにした。
 - ③ 地域の指導者や保護者と連携し、新体力テストを実施することで、児童は自己記録の向上を目指し意欲的に取り組むとともに、教員は測定方法を学ぶことができた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 体育専科教員と学級担任によるTTで指導に当たることで、児童が安全に活動できるようにした。
- 2 地域の指導者と連携して指導するに当たり、体育専科教員、学級担任、地域の指導者で打合せを密に行い、実態に即した指導内容の検討や無理なく安全に取り組めるような環境整備を行った。

○成果の意義と今後の課題

- 1 体育専科教員と学級担任が体育の授業づくりや指導方法、教具、学習カードについて協議することで、全教員の体育に関する指導力の向上につなげることができた。
- 2 大学との連携により専門的な指導を受けたことで、児童の技能、関心・意欲の向上だけでなく、教員にとっても参考となる指導方法を学ぶことができた。
- 3 地域の指導者の活用や保護者との連携により、意欲的に新体力テストに取り組み、その結果を体育の授業に生かすことで、体力の向上にもつなげることができた。

○ 研究内容

【学級担任と体育専科とのTT 体育の授業①】

連携して授業を進めることで児童も安心して活動



【持久走大会 地域との連携①】

上武大学駅伝部員による指導と持久走大会



【励まし合い・学び合い 体育の授業②】

技のポイントを学習カードで確認しながら技能の向上



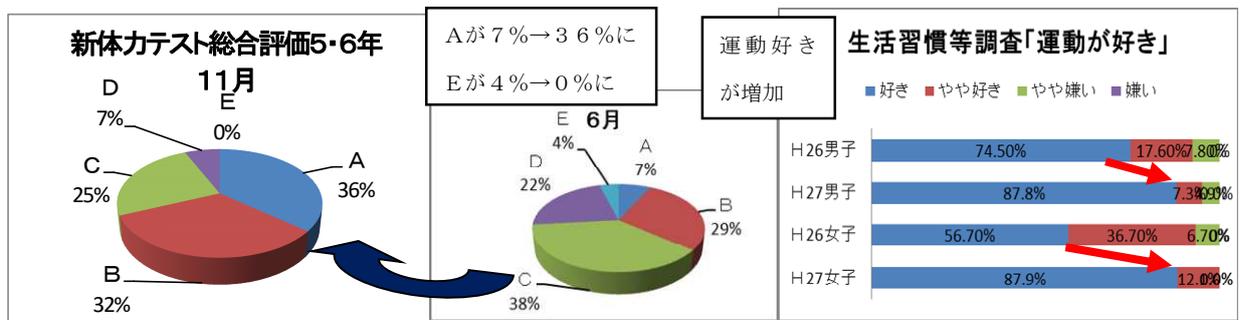
【新体力テスト 地域との連携②】

地域（体育協会）・保護者・学校が協力して測定



【平成27年度 全国体力・運動能力、生活習慣等調査より】

新体力テストを年2回実施して総合評価が向上、運動に対する意識も向上



【児童に体育・スポーツの楽しさを味わわせ、体力を向上させるために】

体育専科教員や地域の指導者との連携により、教員の指導力の更なる向上

体育専科教員が学級担任とTTによる体育の指導を行うことで、児童に運動の楽しさを味わわせ運動量を確保することができただけでなく、教員にとっても指導内容、指導力の向上を図ることができた。また、大学や地域の指導者と連携した取組を実践することで、児童の技能の向上、関心・意欲の向上も図ることができた。

今後、学級担任のみの体育の指導においても、児童に運動の楽しさを味わわせることができるよう、体育専科教員や地域の指導者と連携を図り、指導力の向上に努めてきたい。

2. 參考資料

事 務 連 絡
平成29年6月20日

各都道府県・指定都市教育委員会学校体育主管課長
各 都 道 府 県 私 立 学 校 主 管 課 長 殿
附属学校を置く各国立大学法人担当課長

スポーツ庁政策課学校体育室

武道必修化に伴う武道の安全管理の徹底について（依頼）

中学校学習指導要領における保健体育科での武道必修化に伴う武道の授業の安全かつ円滑な実施について、平成24年3月9日付け23文科ス第918号「新しい学習指導要領の実施に伴う武道の授業の安全かつ円滑な実施について」により依頼いたしました。

平成29年度も引き続き、中学校における武道の授業の実施に当たり、指導者、指導計画、施設設備・用具、事故発生時の対応等の指導体制について御確認いただくとともに、特に柔道を行う各学校については、安全管理の徹底を図る中で、保健体育科での本年度の柔道の授業の開始前に、別添について御確認いただき、より安全に指導できる体制にしてくださいようお願いします。また、柔道の指導体制について御確認いただいた結果については、実施要領（別紙1）及び回答・集計要領（別紙2）に基づき、集計票を作成の上、平成29年7月28日（金）までに下記提出先まで御提出いただきますようお願いします。

このことについて、各都道府県・指定都市教育委員会学校体育主管課におかれては所管の学校及び域内の市区町村教育委員会等に対して、各都道府県私学担当主管課におかれては所轄の私立学校に対して、各国立大学法人担当課におかれては附属学校に対して、この趣旨について周知及び調査結果を取りまとめていただくとともに、適切な対応がなされるよう御指導をお願いします。

（本件問合せ先・調査提出先）

スポーツ庁政策課学校体育室
指導係 原、難波
電 話 03-6734-2674
ファクシミリ 03-6734-3790
電子メール staiiku@mext.go.jp

柔道の指導体制にかかる確認事項

(1) 指導者について

イ) 平成29年度に柔道の授業を開始する時点^{*1}において、一定の指導歴又は研修歴を持った教員が指導に当たることができる体制^{*2}になっているか。

※1 実際に授業の開始を予定している時点であり、年度当初の4月とは限らない。

※2 例えば、複数の担当教員がいる学校で、一定の指導歴及び研修歴を持たない教員が単独で授業を担当する場合は「指導に当たることができる体制」に該当しないが、当該教員が今後授業開始までに指導をし得るような一定の研修を受ける予定の場合は該当すると考えられる。

ロ) イ) の体制が確保できない場合、適切な外部指導者の協力を得ることになっているか。

【留意点】

指導者が一定の指導歴又は研修歴を持たない教員である場合は、教育委員会や柔道関係団体にある人材データバンク等を活用し、退職警察官等外部指導者の協力を得ること。また、指導歴及び研修歴が浅い教員については、授業の開始時点までに十分に研修の機会を確保すること。

(2) 指導計画について

3年間を見通した上で、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全の確保に十分に留意した計画となっているか。

【留意点】

問題点が判明した場合、指導計画（例えば単元計画等）を修正し、無理な計画での授業は行わないこと。また、必要に応じ、都道府県柔道連盟等の協力を得て、外部指導者によるアドバイスを受けること。

なお、「柔道の授業の安全な実施に向けて」（平成24年3月）、学校体育実技指導資料第2集「柔道指導の手引（三訂版）」（平成25年3月）を踏まえ、安全に柔道の指導を行う観点から特に以下の点について配慮が求められること。

① 3年間の指導を見通した上で、各学年で適切な授業時数を配当し、効果的、継続的な学習ができるようにすること。

第1学年及び第2学年においては、受け身の練習を段階的かつ十分に行った上で、指導する技や時期を定め、技と関連させた受け身の指導を行うこと。また、受け身がとれるようになった後、投げ技のかかり練習や約束練習など、段階的に練習を行うこと。その際、固め技について自由練習やごく簡単な試合で攻防の楽しさを味わわせることが考えられること。

さらに、第3学年においては、生徒の技能の上達の程度等を踏まえ、安全上の配慮を十分に行った状態で、使用する技や時間を限定するなどして簡単な試合までを計画することも考えられること。

② 生徒の学習段階や個人差を踏まえた無理のない段階的な指導を行うこと。

なお、学習指導要領の解説で示している「大外刈り」などの技については、あくまでも例示であり、記載された全ての技を取り扱わなければならないものではないこと。

(3) 施設設備等について

施設設備及び用具の安全が確保されているか。特に体育館を使用する場合は、例えば畳のずれを防ぐ措置など柔道を行う場の安全が確保されているか。

【留意点】

十分でない場合は、早急に施設設備及び用具の安全の確保策を講じること。

(4) 事故が発生した場合の対応について

事故が発生した場合の応急処置や緊急連絡体制など、対処方法について関係者間で認識を共有しているか。

【留意点】

十分でない場合は、早急に事故が発生した場合に対応できる体制を整備すること。